

2003年度 環境週間報告書

主催：慶應義塾大学環境サークル E.C.O.

慶應義塾大学日吉キャンパス

後援：横浜市環境事業局

目次

- 第一部
- 1.はじめに
 - 2.環境週間とは
 - 3.開催期間
 - 4.開催場所
 - 5.メインテーマ「分煙」
 - 6.環境週間の狙い
 - 7.環境週間タイムテーブル
 - 8.開催企画一覧

第二部 各開催企画の報告

- メディアセンター企画
- 講演会
- 他大学合同パネルディスカッション
- 大学生協とのタイアップ企画
- 容器PR企画
- 分煙勉強会 Dr.シガレットの「知ろう！分煙！」
- 横浜市環境事業局後援による携帯灰皿無料配布
- 地域とのタイアップ企画
- 来往舎ギャラリースペース展示企画
- 塾生会館プロジェクト
- 塾内意識調査の実施
- 東京電力環境シンポジウム
- 三田商店街ゴミ拾い
- 塾内意識調査（三田）
- 広報活動
- 他大学とのコラボレーション

- 第三部
- 全体を通しての考察
環境週間スタッフ一覧

1. はじめに

2003 年度環境週間を中心となって開催した「慶應義塾大学環境サークル E.C.O.」は 1991 年に結成された組織である。また、慶應義塾大学の公認団体として塾当局から公式に活動を認められている学生団体であり、慶應義塾大学の文化団体連盟に加盟している。なお、サークル名称の「E.C.O.」とは、「Environmental Conservation Organization」の略である。

我々「E.C.O.」は「自然環境について考え、身近なところから行動していく」ことを活動理念としている。慶應義塾大学日吉キャンパスでは主に学内の環境改善から取り組んでいて、学内で発生する多量のコピー用紙などの古紙を定期的に回収してまわる「古紙回収」、慶應義塾大学の公認団体の活動の拠点となっている塾生会館内のゴミ箱の改善などを含む「塾生会館内のゴミ分別改善」、環境についてサークル内の知識を深めるための「勉強会」などを行っている。また、慶應義塾大学のキャンパスで 1 年に 1 回行われる矢上祭や三田祭では、塾内で中心となって学園祭の環境対策を行っている。

これらの様々な活動を通して、塾生に環境保全をアピールするとともに、環境意識の向上を目指している。

2. 環境週間とは

昨年（2002 年）慶應義塾大学において初めて「環境週間」を開催した。その趣旨はある一週間を「環境週間」として定め、その期間中に慶應義塾大学の塾生・教員・職員を中心とした多くの人に対して環境意識の向上のきっかけを投げかけるため、数々の環境関連企画を行うというものであった。

今年慶應ではその「環境週間」を、学内でも問題となっている「分煙」をメインテーマとし、慶應義塾大学の 3 キャンパスにて開催した。

3. 開催期間

2003 年 6 月 16 日（月）～2003 年 6 月 21 日（土）

2003 年度環境週間開催期間は 6 月 16 日（月）から 21 日（土）までの一週間を開催期間とし、その間 慶應義塾大学の 3 つのキャンパスで身近な環境問題に関する各種企画を行った。

2003 年度 環境週間を 6 月に行うことに決めた流れは、環境省の定める「環境月間」に合わせようという E.C.O.の意図によるものである。

6月5日は、1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して「環境の日」と定められている。国連では、日本の提案を受けて6月5日を「世界環境デー」と定めており、日本では「環境基本法」が「環境の日」を定めている。

「環境基本法」は事業者および国民の間に広く環境の保全についての関心と理解を深めるとともに、積極的に環境の保全に関する活動を行う意欲を高めるという「環境の日」の趣旨を明らかにし、国、地方公共団体などにおいて、この趣旨にふさわしい各種の行事などを実施することとしている。また、日本では環境庁（現環境省）の主唱により、平成3年度から6月の一ヶ月間を「環境月間」として、全国で様々な行事が行われている。

この「環境基本法」、「環境月間」をふまえ、わが慶應義塾大学でも、「環境月間」中に、広く環境についての関心と理解を深めるような活動をしたかったというのも、6月開催の大きな理由である。

次に6月の何週目に開催するかについては、学校の行事・E.C.O.内の行事を考慮した。

具体的に述べると4・5月は新入生が入部してくる時期なのでE.C.O.の部員がその他の雑務に追われる可能性が大きく、6月の第一週・第二週に環境週間を開催してしまうと、準備が不完全なまま開催してしまう恐れがある。このため、6月第一週・第二週に開催することは断念した。

また、6月の第四週・第五週は前期の語学の試験が始まる学科もあると思われるので、E.C.O.部員の人手不足を招く恐れがある上に、環境週間で環境について主に訴えることになる慶應義塾大学の塾生、教員、職員が環境週間に対する興味を十分に注ぐ余裕がなくなってしまう可能性があるため、第四週・第五週に開催することも断念した。

このようにして、6月の第三週にあたる、16日から21日までを2003年度環境週間として定めた。

4. 開催場所

今年の環境週間は慶應義塾大学日吉・三田・湘南藤沢の3キャンパスで開催され、日吉・矢上キャンパスのみで行われた去年よりも規模は拡大したと言える。

また、慶應以外にも東京大学の駒場キャンパスと法政大学の市ヶ谷・多摩キャンパスで環境週間が同時期に行われた。

この報告書は、その中の慶應義塾大学日吉キャンパスでの環境週間に関するものである。

5. メインテーマ「分煙」

今回の環境週間では、今話題となっている「分煙」をメインテーマとし、キャンパスエコロジーの観点から幅広く環境問題について考えた。

今年5月1日から施行された「健康増進法」では、「学校」が受動喫煙に対する対策を講じることが義務づけられ、慶應義塾大学でも4月1日より本格的な「歩行禁煙」がスタートした。しかし、実際にそのルールが守られているとは言えず、「歩行禁煙」の看板を横目に堂々とタバコを吸う塾生は後を絶たず、タバコのポイ捨ても多く見受けられるというのが現状である。

そこで、今回の環境週間では「分煙」について喫煙者・非喫煙者の両方の立場で考えるべく、分煙に関する企画を柱とした。

6. 環境週間の狙い

慶應義塾大が社会に果たす役割を考えた場合、社会に出た塾員が環境について何らかの考えを持っていることは、とても重要なことと言えるのではないだろうか。そこで、環境に対して大学を挙げて配慮するための機会を提供することにより

- 塾生・教員・職員の3者に環境に対して「考えるきっかけ」と「行動するきっかけ」を提供する。
- 日吉、三田、湘南藤沢の各キャンパスで実施することによって、全塾に対し、環境への意識を根付かせる。
- 塾生・教員・職員に分煙の意義を知ってもらい、みんなで居心地の良いキャンパス作りを行う

ことが、今年度環境週間の狙いである。そしてこれらの活動が後に慶應義塾大学の環境保全への対応に良い意味での変化をもたらすことを強く願う。

7. 環境週間中のスケジュール						
	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)	21日(土)
メディアセンター	分煙本紹介「もう一度知ろうタバコのあれこれ」					
学内全体	容器回収ボックス設置・ゴミ箱改善					
中庭テント		2限, 3限 My 箸作り (雨天中止)	2限, 昼休み My 箸作り			
来往舎 ギャラリースペース	「エコギャラリー」					
来往舎 シンポジウムスペース		放課後 他大学合同 パネルディス カッション	放課後 分煙勉強会 「知ろう分 煙！」		5限 講演会	
矢上川周辺						9:30 ~ 矢上小と慶應 のクリーン大 作戦
日吉駅	8:00 ~ 8:50 携帯灰皿配布			17:30 ~ 18:30 携帯灰皿配布	8:00 ~ 8:50 携帯灰皿配布	

8. 各企画一覧

- メディアセンター企画
- 講演会
- 他大学合同パネルディスカッション
- 大学生協とのタイアップ企画
- 容器 PR 企画
- 分煙勉強会 Dr.シガレットの「知ろう！分煙！」
- 横浜市環境事業局後援による携帯灰皿無料配布
- 地域とのタイアップ企画
- 来往舎ギャラリースペース展示企画
- 塾生会館プロジェクト
- 塾内意識調査の実施
- 東京電力環境シンポジウム
- 三田商店街ゴミ拾い

- 塾内意識調査（三田）
- 広報活動
- 他大学とのコラボレーション

9. 各企画報告

メディアセンター企画

もう一度知ろうタバコのあれこれ

～吸わない人も吸う人も～

文責：緒方章子

企画概要

日吉メディアセンター 1 階の展示ケースを借りて、タバコに関する本を紹介した。また展示ケースの側にテレビを設置して、タバコに関するビデオを流した

実施期間：2003 年 6 月 10 日（火）～25 日（水）

実施場所：日吉メディアセンター 1 階展示ケース

企画説明：去年は単に環境に関する本を紹介しただけだったメディアセンターとのタイアップ企画。今年は今年の世界環境週間のテーマである「分煙」にちなんで、展示ケースを利用してタバコに関する本を集めて展示した。ビデオ上映はメディアセンターの方の案で、タバコに関するビデオの中でも、映画上映企画にまわすほど時間が長くないものを展示ケース側のテレビで流した。

目的：塾生と教職員にタバコの害を再認識してもらうこと、また、分煙プログラムなどタバコをやめるためにできることを知ってもらうこと。

企画報告

去年に引き続き展示ケースは目立つ場所にあるので気にとめる人は多く、少なくとも効果はあったと思う。

紹介した本

- ・ 「さよならタバコ 卒煙ハンドブック」京都禁煙推進研究会
- ・ 「やさしい空気環境へ」中央労働災害防止協会
- ・ 「たばこ社会の実態」川端行夫著
- ・ 「たばこの謎を解く」コネスール著
- ・ 「たばこで他殺、たばこで自殺」宮崎恭一著
- ・ 「喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導の手引 小学校編」日本学校保健会

準備段階

- 12月 12月～3月、春期休業中は企画書を作成、休みが明けたらする事を挙げてそれを確認
- 3月
- 4月 メディアセンターの方と話し合い始める。細かい企画書の作成、ビデオの件(去年はビデオ上映は実現できなかった) 展示期間の話、大学～メディアセンターとつながっている HP のメディアセンターの企画部分に載せる宣伝文について話した
- 5月前半 紹介したい本をピックアップ、購入希望本リスト作成&提出
- 5月後半 最終的な企画名とHP文の作成&提出、ポスターの原案提出
- 6月第1週 展示に必要な工作作業
- 6月第2週 メディアセンターの方の協力を得て展示作業

今後の展望

準備を始めるのが遅かった。メディアセンターとのタイアップ企画は去年もあって比較的うまくいったためあまり危機感がなく、どうしても準備が遅くなる。しかしそれで完璧にできているわけではないのが問題なので、この反省を生かして今後は事前の準備をもっと余裕を持って行えると良いと思う。それができれば、紹介する本を熟読できて自分たちの理解度も増し、展示ももっと奥が深い有意義なものができるだろう。

協力

日吉キャンパスメディアセンター

費用

40	展示のための工作に使った画用紙代。
<u>× 9</u>	
360	
<u>× 1.05</u>	(消費税)
378	<u>378 円</u>

本の購入は塾生としてメディアセンター(大学側)に申し込む形なので無料

講演会

資源循環型社会の実現に向けて

～ 千葉県の取り組み～

文責：小澤哲也

企画概要

開催日時：2003年6月20日（金）16：30～18：00

開催場所：日吉キャンパス 来往舎 シンポジウムスペース

企画説明：森茂氏（千葉県 環境生活部 資源循環推進課 課長）による講演会。

「資源循環型社会」の実現に向けての千葉県の取り組みについて。

目的：環境問題についての講演会を通して、塾生の関心を集める。

来場者の環境問題への知識を深め、意識を高める。

企画報告

千葉県庁の資源循環推進課の課長で、慶応義塾の塾員でもある森茂氏をお招きして、講演会を開催した。都道府県レベルの行政という立場からの環境問題への取り組み（特に資源循環型社会）について、千葉県を具体例として解説していただいた。また、「堂本暁子知事になって環境政策は変わったか」「三番瀬の問題について」等といった、千葉県の環境問題についての時事的な話題について事前に質問をしていたが、それについてもご回答いただいた。

講演は質疑応答を含めて100分以上にも及び、慶応義塾の学部生をはじめ大学院生や他大生も含む40名強が、森氏の熱心でわかりやすい説明に聞き入っていた。

当日のタイムテーブル

15：00 会場準備

16：00 開場

16：30 講演開始

18：00 質疑応答

18：15 講演終了

アンケートの集計結果

アンケート回収総数は、34部。

講演会を知った手段（複数回答可）	
ポスター・宣伝文メールを見て	16名
友人・知人から聞いて	12名
環境週間のHPを見て	6名
その他	2名

ポスター、メールでの宣伝文が比較的效果があったことがわかる。より多くの対象に広報すれば、まだまだ集客できるかもしれない。

その他：講演者とのつながり、父親に講演会のことを教えられて。

来場目的（複数回答可）	
環境問題に興味がある	28名
地方自治体の仕事に興味がある	12名
千葉県と関わりがある	6名
その他	1名

環境問題に関心のある来場者が多かった。地方自治体の仕事に興味がある人、千葉県の出身者へのアピールが不足していたというのが、課題である。

その他：授業で資源循環型社会について学んでおり、その参考にするため。

講演（講演者、内容など）は良かったか？	
良かった	27名
どちらとも言えない	4名
良くない	0名
無記入	3名
合計	34名

講演自体はとても良かったことがわかる。もっと多くの人に聞いてもらいたい内容であった。今回の課題は、主に広報面であったと言えるだろう。

来場者数

総来場者は、43名。

学部別来場者数	
文学部	6名
経済学部	11名
法学部法律学科	2名
法学部政治学科	9名
商学部	5名
理工学部	8名(院生1名含)
他大学	3名
職員	1名
合計	43名

学年別来場者数	
1年生	13名
2年生	20名
3年生	6名
4年生	2名
院生	1名
職員	1名
合計	43名

準備段階

- 2月
- ・講演会企画担当者が決定。
 - ・昨年度講演してくださった経済学部長の細田教授がご多忙のため、今年度の講演会を断念。
- 3月
- ・講演会企画担当を日吉担当と三田担当に分ける。
 - ・講演者の候補をリストアップ。
 - ・春休み中のため、交渉が進まず。
 - ・E.C.O.部員の橋本さんのご縁で、千葉県庁の森氏を紹介してもらう。
- 4月
- ・慶応の教授だけでなく、社会で活躍する方の話も聞いてみたいとの声から、森氏に講演を依頼することを提案、可決される。
 - ・森氏に正式な講演の依頼をする。森氏は快く引き受けて下さる。
 - ・森氏から、「千葉県資源循環型社会づくり計画」のレジュメを頂く。
 - ・講演者の決定に伴い、1年生を中心に企画担当者を追加募集。
- 5月
- ・環境週間HPに載せる宣伝文を作成。
 - ・講演会企画担当で、「千葉県資源循環型社会づくり計画」のレジュメをもとに、講演会の内容について話し合う。
- 6月第1週
- ・森氏に、メールで講演内容についての要望および質問を出す。
 - ・宣伝媒体(宣伝文メール、看板、ポスター、配布用ビラ)

およびアンケートを作成する。

- 第2週
- ・直後に迫った環境週間に向けて、広報活動をする。
 - ・森氏とメールで講演会の最終確認をする。
 - ・当日スタッフの仕事を確認。

- 第3週
- ・環境週間中に講演会開催（20日、金曜日）。

今後の展望

今回の講演会は、講演自体はアンケートの結果を見てもわかるとおり、成功したと言える。しかし、それは講演者の森氏の仕事への情熱とプレゼンテーション能力の高さ（アンケートの感想より抜粋）によるところが大きい。講演会を開催する側としては、多くの課題を露呈する結果となった。

昨年の第1回環境週間が10月に行われ、今回からは環境週間は毎年6月に開催されるため、今回の第2回環境週間は、言わば「最も準備期間の少ない環境週間」である。事実、企画が動き出したのが春休み中の2月であった。また、日吉の講演会の企画は、4月までは企画責任者1人で動かしていた。1人では仕事量にもアイデアにも限界がある。これは、来年度に改善すべき最重要課題である。

実際、企画の始動が春休み中であったため、講演者の選定や交渉に手間取った。講演者が決まってからも、広報面において全力を注ぐことが出来なかった。また、講演者の森氏が部員の紹介であるという甘えから、当日まで森氏と顔を合わず、メールでのやりとりのみで済ませていたという失態を犯した。これは、最も避けるべき事態である。

講演会は、大学の教授や社会人といった、社会で活躍する目上の方を、多忙なスケジュールに無理を言って講演をしていただく企画であり、環境週間の目玉企画の1つでもあるため、環境週間の企画の中でも、より多くの人員を割り、入念に用意すべきである。

幸い来年度の環境週間までは1年間ある。責任者を2人にして、12月には始動し、1月中（春休み前）に講演の約束を取る。4月からは責任者は分業し、1人は講演者との交渉役、もう1人は講演会の広報に専念し、新1年生も交えて講演会に備える。以上が来年度からの望ましいプランである。

最後になるが、慶応義塾の後輩のために快く講演を引き受けて下さり、礼儀知らずの我々にも暖かい指摘を下さった森さんに、心からお礼を申し上げたい。

協力

森 茂 氏（千葉県 環境生活部 資源循環推進課 課長）

木村 平和 氏（慶応義塾大学 日吉運営サービス担当）

費用

謝礼	¥ 0
会場費	¥ 0
記録用ビデオテープ代	¥ 3 5 7
撮影用フィルム代	¥ 1 1 7 6
講演者交通費	¥ 2 0 0 0
雑費	¥ 2 1 0 0
合計	¥ 5 6 3 3

他大学合同パネルディスカッション

大学の環境対策と学生の取り組み

文責：田中将之

企画概要

<u>実施期間</u>	2003年6月17日(火) 18:10開始
<u>実施場所</u>	来往舎シンポジウムスペース
<u>企画説明</u>	他大学から学生を招き、『学内の環境問題』をテーマに パネルディスカッションをする。
<u>目的</u>	社会人ではなく、学生の視点での話をする ことで 来場者の環境問題への意識を高める

企画報告

今年で2回目となるこの企画。今回はパネリストを7人から5人に減らしてコンパクトに収めた。さらに一人が一回に話す時間を短くし、細かく各人を指名するようにした。『大学内の環境問題』をメインテーマに据え、我々環境サークル等の学生の活動ではなく、大学側が行っていることについて言及した。それぞれの大学の個性あふれる上智、東大、早稲田の3大学、そして慶應(日吉、SFC)の相互比較を目的として興味深い話ができたとと思う。後半は参加者への質問の投げかけや、パネリスト自身の個性の出る環境への想いを話してもらい、参加者にも好評だった。

出演者(敬称略)

司会・進行

田中将之(慶應義塾大学/環境サークルE.C.O.)

パネリスト

渥美瑤子(上智大学/ANGLEs)

大部沙絵子(東京大学/環境三四郎)

小澤哲也(慶應義塾大学/環境サークルE.C.O.)

牧野宏之(早稲田大学/環境口ドリゲス)

三本裕子(慶應義塾大学/SAEI)

当日のタイムテーブル

- ・日吉キャンパス事務長挨拶 18:15～
- ・自己紹介、サークル紹介 18:20～
- ・キャンパス内の分煙について 18:30～
- ・大学の行っている環境対策 18:40～
- ・パネリストからの一言 19:05～
- ・質疑応答 19:20～
- ・退場 19:40

来場者数

学部別来場者数	
文学部	4名
経済学部	12名
法学部	6名
商学部	4名
理工学部	5名(院生1名含)
他大学	8名
職員・その他	4名
合計	43名

学年別来場者数	
1年生	12名
2年生	20名
3年生	4名
4年生	2名
院生	1名
職員・その他	4名
合計	43名

アンケートの集計結果

現在執筆中

準備段階

- 4月 ・下旬の全体ミーティングにて企画発足が決定
- 5月前半 ・パネリストの選定
- 5月後半 ・第1回ミーティング(20日)
- 6月第1週 ・第2回ミーティング(3日)
- 6月第2週 ・第3回ミーティング(13日)リハーサル
・印刷作業

今後の展望

前半は各大学の取り組みの紹介に留まってしまい面白みに欠けた。後半の参加者への抜

き打ち質問やパネリストの個性の出るエピソードなどのように、単調にならない要素が必要なことと、難しいが理想的にはパネリスト間で議論をするなどしてより活発なものにできればよいと思う。

協力（敬称略）

渥美瑤子（上智大学 / ANGLEs）
大部沙絵子（東京大学 / 環境三四郎）
牧野宏之（早稲田大学 / 環境ロドリゲス）
三本裕子（慶應義塾大学 / SAEI）
田辺久夫（日吉キャンパス事務長）

費用

・パネリスト当日交通費	： 3 1 3 0 円
・印刷費（レジユメ、ポスター等）	： 5 0 0 円
・記録用ビデオテープ	： 3 5 7 円
合計	： 3 9 8 7 円

生協とのタイアップ企画

マイ箸作り・エコ商品

文責：佐藤麗

企画概要

- * マイ箸作り
- * 間伐材割り箸の導入
- * 間伐材封筒の販売
- * 携帯灰皿の販売
- * 割り箸リサイクル

* 間伐材とは、木々が健やかに成長するため間引きした木材

実施期間

- * 6月16日～21日
- * マイ箸作りは18日（雨天決行。17日は雨天中止）

実施場所

- * マイ箸作り・・・塾生会館トレーニング室前の屋外
- * 間伐材封筒、携帯灰皿の販売・・・生協購買部内
- * 割り箸回収・・・生協、二幸、グリーンズの各食堂

企画説明

- * マイ箸作り・・・竹を自分のすきなように削り箸を作る。
- * 間伐材割り箸の導入・・・生協で販売するお弁当や、生協食堂内で使われる割り箸を間伐材割り箸に変えてもらう。
- * 間伐材封筒の販売・・・間伐材を原料にして作られた封筒にPR装飾を施し、販売する。
- * 携帯灰皿の販売・・・タバコのポイ捨てを減らすために携帯灰皿にPR装飾

を施し、販売する。

- * 割り箸リサイクル・・・食堂から毎日出る割り箸を回収して製紙工場に送り、紙の原料にしてもらう。

目的

- * 生協とのタイアップ・・・日頃何気なく利用している生協で環境にやさしい製品を販売したり PR したりすることで、学生に自身の行動が環境問題に関わっていることを自覚してもらう。
また、生協も大学をあげてのイベント、環境週間に協力することでイメージアップを図り、これを機に環境への取り組みを進めていただくこと。
- * マイ箸作り・・・自らオリジナリティあふれるマイ箸をすることで、その箸を持ち歩く素敵なライフスタイルを提案すると共に、使い捨て割り箸により毎日大量のゴミが出たり、木材伐採が行われていたりすることを認識してもらう。
- * 間伐材割り箸の導入、間伐材封筒の販売・・・
間伐材とは何かをアピールしながら、その製品を PR することで未来の循環型社会をイメージしてもらう。
- * 携帯灰皿の販売・・・ポイ捨て防止を PR すると共に喫煙マナーを守ってもらうため。
- * 割り箸リサイクル・・・使用済み割り箸が紙にリサイクルされることをアピールすることで、未来の循環型社会をイメージしてもらう。

企画報告

- * マイ箸作り・・・予想以上に来場者が来て、皆それぞれオリジナリティあふれる箸を作製していた。
- * 間伐材割り箸の導入・・・去年と同様、樹恩ネットワークの間伐材割り箸を導入し、生協食堂やお弁当の箸として使用された。ま

た、間伐材割り箸を PR するポスターを作製し生協食堂内にはりテーブル卓上にも PR 紙をおいた。

* 間伐材封筒の販売・・・FOE JAPAN という国際環境 NGO からとりよせた間伐材割り箸に、生協メンバーで販売用帯を巻きつけ PR 装飾をして販売した。

* 携帯灰皿の販売・・・ポッケロという携帯灰皿を環境週間前から早めに生協で販売していただいた。PR 装飾もした。

* 割り箸リサイクル・・・各食堂に割り箸回収 BOX を設置し、回収した割り箸をティッシュである程度ふき輸送用ダンボールに詰め替えた。これを王子製紙春日井工場へ輸送する。

当日のタイムテーブル

1 8 日マイ箸作り

1 0 時半：部室集合

1 1 時ころ：テント設営開始

1 2 時ころ：テント設営完了、マイ箸作り開始

1 4 時半ころ：マイ箸作り終了、テント撤収開始

1 5 時ころ：テント撤収終了

* 用意したもの・・・新聞紙、小刀、カッター、カンナ、消毒液、ばんそうこ、ほうき、ちりとり、長机、椅子 6 個

来場者数

1 6 人

準備段階

12 月 特になし

1 月 特になし

2 月 特になし

- 3月 9日・・・第1回ミーティング@新宿 参加者：佐藤う、高岡
生協企画案を出す・・・マイ箸作り、間伐材割り箸の導入、ポスター作製
- 3月 31日・・・渉外@生協プレイガイド 参加者：佐藤う、高岡
組織渉外担当、永堀氏に生協企画書を提出し、軽く説明した。
その日のうちに、生協購買部と食堂部の店長さんを紹介していただく。
- 4月 17日・・・渉外@プレイガイド 参加者：佐藤う、相良
生協の永堀氏と、食堂部店長の小川氏と、購買部店長の関根氏の3者を前に生協に関わる企画内容の説明をして協力を要請した。間伐材割り箸、間伐材封筒、割り箸リサイクルの件は了承を得た。また、ポスターも去年と同じ用量、提示可能になった。
- 5月 15日・・・学事センター学生課に、塾生会館のトレーニング室前の場所を借りる申請をした。
- 5月 17日・・・生協ミーティング@部室 参加者：高岡、松木、大西、佐野、佐藤う
企画についてと、ポスターは生協に関連している内容であることを前提とした、割り箸や、エコプロダクツのものを作製することを説明する。
- 5月 24日・・・竹を細分化@畑近く 参加者：仲摩、高岡、松木、大西、深谷、根岸、山村、赤松
竹はエコ部員の出身高校から譲っていただいたものを使用。
その日のうちに割り箸回収BOXも作製する。
- 6月 主にポスター作成を行う。
- ・ 生協購買部脇の掲示板に貼る模造紙ポスター1枚
 - ・ 生協食堂内卓上におくPR紙60枚
 - ・ 食堂内に貼る間伐材割り箸PRポスター4枚
 - ・ 割り箸回収ポスター模造紙1枚
 - ・ 割り箸リサイクルポスター8枚
 - ・ マイ箸作り立て看板用ポスター1枚

間伐材封筒

- ・ FOE JAPAN に電話で交渉する
- ・ 長3を1000枚、角2を500枚購入することに決定。
- ・ パックされていないので生協メンバーで帯をつけることに。

- ・ 長3は20枚入り90円、角2は10枚入りで100円。

反省、感想、今後の展望

- * マイ箸作り・テントが大きく人目をひきやすかった。
 - ・ テントの大きさに対して椅子の数が足りなかった。
 - ・ 外観が正面から見た場合、何をやっているのか伝わらなかった。
 - ・ マイ箸作りの趣旨や魅力について伝える手段が不足していた。
 - ・ 指導する側に作り方や、道具の正しい使い方のマニュアルが必要だった。
- * 間伐材封筒の販売
 - ・ 環境保全という観点からは良い試みだった。
 - ・ 封筒は学生には使用頻度が低いので、エコプロダクツの選択に誤った感がある。
 - ・ NGO から購入したために交渉に手間取った。
 - ・ 包装一切もエコ側が請けおうことになった。
 - ・ 封筒の帯は色もデザインもよかった。
- * 携帯灰皿の販売
 - ・ 環境週間が始まる前から売り出せた。
 - ・ もっと目立つ形で売り出せばよかった。
- * 割り箸リサイクル
 - ・ 回収BOXは目だってわかりやすかった。
 - ・ 回収の際にシフトを組むべきだった。
 - ・ 割り箸を回収する趣旨のアピールが不足した。
- * 全体
 - ・ 生協企画の良い点は人目につきやすくわかりやすいこと。
 - ・ ポスター作りには多くの人が手伝ってくれた
 - ・ 経済的問題を考慮しつつ、環境循環型社会をリードするような生協となることを期待する。

協力

生協食堂部
生協購買部
二幸食堂
グリーンズ食堂

容器 PR 企画

文責：相良恵里

企画概要

実施期間：環境週間中(6月16日～21日)

実施場所：日吉キャンパス内

企画説明：2002年三田祭で使用された、リサイクルトレー「ミンミ・リ・リパック」のPR企画

目的：日吉の弁当容器統一に向けての土台作り
今まで各業者がバラバラに使っていた容器を環境に配慮したもので統一することで、回収をスムーズにし、リサイクルしやすいシステムにすることを目的とする。
リサイクル容器を使用することで、塾生に環境に対して身近なきっかけを与える。

企画報告

2002年度の三田祭でも使用された(株)ヨコタのミンミ・リ・リパック(リサイクルトレー)を環境週間中使い、PRする形となった。

このトレーの特徴は表面のフィルムをはがせる仕組みになっていることである。使用後に汚れたフィルムをはがし、それは燃えるごみへ、一方汚れのないトレーは回収しリサイクルルートに乗せ溶かした上で再び、再生される。このトレーの利点はゴミ減量化が実現できる点と、洗浄の際水をよごさないこと、また捨てる際にフィルムを剥がす行為によって環境意識を触発できる点である。

この企画を通して、学生に環境に対して身近にできることそしてその必要性を考えてもらう機会が与えられたことと思う。

準備段階

4月：グリーン、二幸より期間中の容器導入の了解をえる。

(ただし、二幸は去年の環境週間以降よりミンミ・リ・リパックを通年で使っている。)

5月前半：企画者担当の募集&決定

5月後半：生協との交渉でミンミ・リ・リパック導入の了解を得ず、企画断念の方向に急遽傾く。

6月第1週：生協より了解をえる。

6月第2週：回収ボックスの設置許可をえる。

回収における機材(回収ボックス、ビラなど)の作成。

容器のPR方法

容器回収ボックスの設置

設置場所：生協食堂前、二幸食堂前、たまり3階、グリーンカフェ前、
フードコンビニ内、

藤山記念館内、塾生会館1・2・3・4階各階に1つ、中庭(2つ)、
陸上競技場前、メディア前

の合計14個。(雨天の場合外に設置してあるものは屋内に避難させ設置した。主に第5号舎教室横、塾生会館)

たて看板の設置

木金土のみ回収ボックス前での容器の説明&回収の推進

使用していただいた学生食堂と弁当販売に伴う容器配布数

生協日吉購買部 生協食堂前、
グリーンカフェ、フードコンビニ、藤山記念館内店舗
二幸食堂、

一日あたりの弁当の売上個数は全体で約1000個。よって弁当容器配布数も同数と思われる。

回収個数

月	6・16	71個	曇り
火	6・17	128個	雨 曇り
水	6・18	77個	雨
木	6・19	109個	晴れ
金	6・20	189個	晴れ
土	6・21	28個	曇り

以上は弁当容器の種類関係なく、とった統計である。一日大体1000個を売り出しているのをみこむと10%未満 20%未満の間の値になることから、非常に悪い回収率といえる。この曜日ごとの回収個数の変化には天候の影響を多大にうけている。やはり、雨の日であった水曜日は三日目にも関わらず、回収率があまりよくない。これは雨の日と晴れの日の、人が容器を捨てる場所の変化によるものではないかと思う。特に雨の日は学生

が容器の捨てる場所が屋内に集中し、また分散する傾向があるため、回収しにくくなるのではないかと思う。

木曜日より、ゴミ箱前にて昼休み～三限の間指導員を動員したが、その影響もあり金曜日の回収率が一番よかった。

今後の展望

目的の である、学生に環境に配慮した容器を認知してもらう機会としてとてもいいものであったが、少々宣伝力不足であった。もう少しポスターの大きさや量をふやしてみてもよかったとおもう。また販売場所でのPRが足りなかった。この企画の一番の目的である、各食堂の容器統一の試行期間としてはよいかもかもしれないが、やはり期間が短すぎて中途半端に終わってしまったようにおもう。果たして一週間のみの容器試行期間は有効的なものか来年は考える必要がある。また、環境週間の企画として実現しなくても日常的に容器統一にむけて今後活動していくべきである。

協力

慶應義塾大学生生活協同組合 日吉店

(株)グリーンハウス

(株)レストラン二幸

慶應義塾大学日吉キャンパス

費用

回収ボックス作成費	¥ 1500
広報費	¥ 1000
輸送費	¥ 1030
合計	¥ 3530

分煙勉強会

Dr.シガレットの「知ろう！分煙！」

文責：松本文

企画概要

実施期間：2003年6月18日（水） 18:00～19:30

（第一部 18:00～18:50、第二部 19:00～19:30）

実施場所：来往舎シンポジウムスペース

企画説明：第一部は日吉保健センターの森 正明医師を招いた「受動喫煙の現状から考える分煙」講演を行い、第二部は「アンケート結果に基づく討議」を行った。

目的：慶應義塾大学では今日、相当数の塾生・教職員が日常的な喫煙を行っている。その為例えば、第四校舎の灰皿が設置されているその周りは白いテープで囲んであり、そこで喫煙する様に、といった数々の喫煙マナーがあるのをご存じだろうか？実際、そこには「喫煙所」という表示が無いために喫煙者から苦情が出たり、喫煙マナーを無視した塾生達の行動が問題になったりと、今日慶應義塾大学は喫煙マナー改善・分煙徹底化について考える必要性に迫られているのではないかと考えられる。

分煙とは、多くの人が行き交う公共の空間で、たばこを吸うことの出来る空間とできない空間を分け、喫煙者と非喫煙者が共存する方法である。何かを決まった場所とする様に、喫煙も決まった場所とするというのが、これからの喫煙のありかたではないだろうか。

昨年の千代田区路上喫煙禁止条例が発令されて、分煙の観念が認知されてきたことに伴って、塾生をターゲットにした分煙勉強会を行うことは非常に意義のあることだと思われるので、企画した次第である。

企画報告

本企画は当初「分煙勉強会」という名前で立ち上がった。だから、「勉強会という名前でもやるからには」と考えた結果、第一部と第二部に分けて講演者と参加者の相互のやりとりが有る様な企画を目指した。

第一部（50分間）では、日吉保健センターの森 正明医師を招き、受動喫煙によって非喫煙者が被る害について、医学的に説明して頂いた。加えて先生は、分煙についても軽く言及して下さった。分煙がどうしても必要なのかを、塾生自身で考

えるきっかけを与える事を目的とした。

第一部終了後、休憩時間を10分取った。また、第一部終了後に集めたアンケートを第二部で結果発表するために、休憩時間の10分を使って集計した。

第二部は、最初の15分間で塾生から森先生への質問タイムとし、アンケート集計が終了後、結果をパワーポイントで画面に出した。その後15分はアンケート結果を基に、森先生に考察を加えて頂き、それからは来場者からの意見の発表の時間とした。

当日のタイムテーブル

17:40	開場
18:00	第一部 開始
18:50	第一部 終了・アンケート回収・休憩
19:00	第二部 開始(質疑応答時間)
19:15	アンケート結果発表・討議時間
19:30	第二部 終了

アンケートの集計結果

講演前アンケート集計結果(42人中)

1. あなたはタバコを吸いますか? YES(1) / NO(41)
- 2.(1でYESの方だけ教えてください)大学内のどこでタバコを吸いますか?(複数回答可)
喫煙スペース(0)/灰皿がおいてある所(0)/歩きながら(1)/特に考えていない(0)
/その他(0)
3. 2の回答に示したように、慶應義塾大学には、喫煙スペースがありますが、喫煙スペースを作ったことで喫煙者と非喫煙者の関係はどのようだと思いますか?
よくなった(7)/変わらない(23)/悪くなった(2)/その他(0)
4. 分煙について知っていますか? YES(39) / NO(3)
- 5.(4でYESの方だけ教えてください)分煙は必要だと思いますか?
YES(39) / NO(0)
6. 慶應義塾大学の喫煙マナーを知っていますか? YES(27) / NO(15)
- 7.(6でYESの方だけ教えてください)どこで知りましたか?
私たちが配ったビラ(3)/学内を歩いていて(24)/その他(0)
8. 受動喫煙が健康に与える影響として、どのようなことを知っていますか?

ぜんそくなど呼吸器疾患の人に与える影響(28)

リウマチなど関節炎への影響(1)

心臓病の人に与える影響(9)

女性(とくに妊娠)に与える影響(34)

肺がんの発生率が増加すること(39)

胃がんの発生率が増加すること(11)

他の人にストレスを与えること(26)

から についてあまりよく知らない(0)

9. 今日の講演に来た理由はなんですか?(複数回答可)

分煙について知りたかったから(16) / 講演内容に興味があったから(22) / なんとなく(3) / 友人の紹介(6)

講演前アンケートの考察(括弧内は参照したアンケート問題の番号)

全体的に見て、喫煙マナー・分煙について一定以上の理解がある人が集まったといえる。(4.8)逆に言えば当企画は、分煙について一番知って欲しい喫煙者にとっては、魅力的な企画とはほど遠かったといえる。(1)しかし、慶應義塾の作った喫煙マナーは塾生にそこまで知られていないし、効果があったと認識する人は少ない。(3.6)塾内分煙化が合法的に進んでいるように見える一方、まだまだ非喫煙者が「分煙が徹底できた」と思える様な環境作りはできていないことが伺える。

講演後アンケート集計結果(31人中)

<企画全体について>

- ・ 質疑応答、アンケートの時間を設けたのはよかった。(しかし、「母集団に偏りがあったので、今回は意味をなさなかったように思う。」との意見もあった)
- ・ ためになった
- ・ 企画内容、方針がよかった
- ・ 基礎から学べたのがよかった。
- ・ アンケートの回答がもっとばらついていればよかった。
- ・ 喫煙者の話を聞きたかった。
- ・ タバコの害を再認識した。

<講師・司会について>

- ・ 先生の講演が分かりやすかった。
- ・ 司会がよかった。
- ・ 先生の質問に対する応答は、質問内容の本筋から話をそらしているようで、満足でき

なかった。

< 大学や社会に対する意見、要望 >

- ・ 日吉のみならず、慶應全キャンパスでの取り組みを！
- ・ もっと分煙についての情報をキャンパス内で流して欲しい
- ・ 学内の灰皿の位置が、本当に非喫煙者に対して害を被らせないようにして配置しているのかがどうか気になる。
- ・ 分煙に対する国の政策の徹底化と対策の強化を望む！
- ・ モラルが人を変える。
- ・ 企業の圧力を痛感(タバコ会社の支持の有無によってデータが異なる)

来場者数

42 人

準備段階

- 1 月 ・ 「分煙」に関する勉強会をやろうと提案される
- 2 月 ・ 企画担当者の決定（松本・田中）
- 3 月 ・ 日吉学生課を通して、保健管理センターに依頼書を提出（8日）
 - ・ 結果、森 正明先生が講演を引き受けて下さることに決定（22日）
 - ・ 森先生にメールで環境週間の概要を説明（23日）
- 4 月 ・ 開催日程と時間を、先生のご予定を基に決定（4日）
 - ・ 森先生と直接会って挨拶・打ち合わせ（22日）
- 5 月前半 ・ 講演前・講演後アンケート・宣伝文原案作成（7日）
 - ・ メンバーを新しく二人追加
 - ・ 企画名が「Dr. シガレットの『知ろう！分煙！』」に決定（15日）
- 5 月後半 ・ エコギャラリーに貼る展示「分煙のすすめ」作成（20日）
 - ・ 森先生と新しいメンバーを交えての初の打ち合わせ（綿密な当日のスケジュールが決まる）（21日）
 - ・ ビラ原案出来上がる（23日）
- 6 月第一週 ・ 広報部署の混乱から、広報活動の準備が滞る
 - ・ ポスター・立て看板作成のため新しいメンバー4人を更に追加（2日）
 - ・ アンケート回収ボックス作成・アンケート結果を画面に出すパワーポイント作成（7日）
- 6 月第二週 ・ 来往舎会場下見・レイアウトの打ち合わせ（11日）
 - ・ アンケート・ビラ印刷（12日）

- ・ 立て看板・当日会場に貼るポスター作成（１３日）
- ・ 塾内に宣伝用に貼るポスター作成（１４日）
- ・ 第一部の講演のレジユメを印刷（１７日）

今後の展望

３月に依頼書を出したところ、森先生は過去にも喫煙に関する講演をしたことがあるということで、講演を快く引き受けて下さった。だから私達も勉強会ということで、先生と塾生との「相互のやりとり」を重視して、第二部ではアンケート結果をもとに討議しようと計画した。しかし実際は、企画に来た客層の関係上、喫煙者が極端に少なく、アンケート結果はデータとして使い物にならなかったのは、この企画が喫煙者にとって参加しにくい物だったことを物語っている。次回このような企画を開催する時は、環境問題＋ という感じの客寄せが出来る企画内容にして、なるべく多種多様な人を集めてアンケートを実施するのが良いと思う。もしくは、事前に対象を絞らずにアンケートを実施し、それに来場者のアンケート結果を混ぜるとまた、面白い考察が加えられるのではないかという意見も出ている。企画のさらなる充実に関しては、これから大いに頑張るべき所である。

松本 文（企画担当責任者）

協力

森 正明 医師（日吉保健センター 医師）

木村 平和 氏 （日吉運営サービス担当）

費用

模造紙代（４枚）	２５２円
先生への花束代	２１００円
お茶代	１４０円

横浜市環境事業局とのタイアップ企画

携帯灰皿無料配布

文責：中島大介

企画概要

<u>実施期間</u>	6/16(月) 8:00~8:50 6/19(木) 17:30~18:30 6/20(金) 8:00~8:50
<u>実施場所</u>	東急東横線日吉駅、駅近辺日吉商店街
<u>企画説明</u>	慶応義塾大学日吉キャンパスの立地する日吉にて、横浜市環境事務局からいただいた携帯灰皿を環境週間のピラとともに配布する。対象は日吉駅を使う市民である。
<u>目的</u>	携帯灰皿の配布により横浜市の定めるポイ捨て防止条例を促進し、日吉の町の美化に努める。

企画報告

配布場所は東急東横日吉駅の改札をでてすぐの場所とした。配布の実施日は6月ということもあり雨天の予想がされていたが、3日間とも天候に恵まれ雨に降られることはなかった。

配布時間は50分間を予定し、一日につき83個を配布する事としていたが開始30分ほどで一日分に相当する数は配り終えることができた。配布終了10分前からは携帯灰皿とともに配布した“環境週間”のピラのゴミ拾いを予定していたが、ピラを四つ折の手のひらサイズに折ったことが功を奏したのか駅構内に捨てられたピラは見当たらなかった。なお3日間ともカモメの着ぐるみを利用した。着ぐるみを使用しての配布はまず遠くから見ても「何かやっているぞ」というインパクトを与えることができPR効果は非常にあった。

当日のシフト、タイムテーブル

携帯灰皿配布 6/16(8:00~8:50)

携帯灰皿配布 6/19(17:30~18:30)

携帯灰皿配布 6/20(8:00~8:50)

3日間とも配布終了10分前より駅のゴミ拾いを行い配布のゴミを片付ける。

配布数

250個 を配布した。

準備段階

- 3月 JTに携帯灰皿の話をするが協力を得られず。
日吉東急百貨店に協力を依頼。携帯灰皿自体がないと回答をえる。
- 4月 横浜市に携帯灰皿の無料提供を依頼。
携帯灰皿の配布について議論を行う。
横浜市の環境事業局を訪問。
- 5月前半 携帯灰皿の提供という形でなく、環境事業局の“環境週間”後援という形で依頼することとする。
日吉駅、日吉東急百貨店、日吉商店街に配布に関する場所の申請をする。
- 5月後半 横浜市環境事業局へ正式に申請。
- 6月第1週 着ぐるみを借りに環境事業局に行く。
携帯灰皿だけでなく、環境週間のピラも同時に配ることとなり日吉駅に配布物の追加申請をする。
- 6月第2週 条例基礎知識、配布マニュアルの学習

横浜市環境事業局からもらったもの、借りたもの

携帯灰皿（横浜市の名前入り）

着ぐるみ（カモメ）

今後の展望

携帯灰皿の配布は環境週間の企画としてはPR効果があり、また美化推進という理念の内に入るもので一見有意義な活動に思われるが、携帯灰皿は「ポイ捨ての防止」としてしか効果を発揮しないものであるために、“歩きタバコの助長”という危険をはらむ。よって来年にも踏襲される企画となるならば、この“歩きタバコの助長”に関して十分な検討のうえで配布するか否かは決められるべきである。

協力

横浜市環境事業局

東急東横線日吉駅

日吉商店街

費用

クリーニング代（未確定）

地域とのタイアップ企画

矢上小と慶応のクリーン大作戦

文責：辻景太郎(本企画責任者)

企画概要

実施期間

6 / 21 (土) 9:00 ~ 11:00

E.C.O.部員の集合は8:30 日吉記念館前。解散は11:15 日吉キャンパスにて。

実施場所

矢上川沿い(日吉六丁目公園~矢上小学校)

企画説明

慶応大学日吉キャンパスの近くに位置する矢上小学校と協力して、その校区である矢上川沿いを矢上小の児童と一緒にごみ拾いをする企画。

目的

環境問題は E.C.O.一団体の行動では、解決に向けての効果に限界がある。そこで、地域の人々と一緒に環境について考え、行動して行きたいと考えた。

本企画は、『環境に対して「考えるきっかけ」と「行動するきっかけ」を提供する』という環境週間の目的に沿って、「行動するきっかけ」を提供することを主要な目的とした。

また今年度の環境週間のテーマ「分煙」にも沿う。小学生と慶応生が協力して吸い殻を拾う姿は、近隣住民や慶応生へのアピールになり、喫煙者にポイ捨てを思いとどまらせる「考えるきっかけ」につながる、と考えた。

企画報告

本企画は当初、日吉の商店街を管轄する日吉本町東町会との協力を目指して交渉していた。しかし、相手の反応が悪く、最終的には断られたため、矢上小学校との協力に変更した。

矢上小の先生方は非常に協力的で、交渉開始時期はやや遅れてしまったが、全面的な協力によって、大きな問題は無く、企画を進められた。

当日、百人以上の小学生や数十名の保護者が参加してくれたことは、環境週間の目的に沿うものであり、非常によかった。これは小学校の全面的な協力があったからこそのものであ

り、他団体とタイアップする一番の魅力は広報面ではないか、と感じた。

しかし、本企画も他の多くの企画と同様に、一般参加の慶応生は少なく、2人(おそらく)にとどまった。慶応生へのアピールはもともと重視しておらず、そういう広報をしたから当然の結果であるが、小学生と比べて、慶応生を巻き込むことの困難さを際立って感じた。

広報対象を絞り込むことで参加者を集めるという本企画の手法は、地域とのタイアップをする際に、応用していきたい。

当日のタイムテーブル

8:30 E.C.O.部員・他大ヘルプ、日吉記念館前集合

辻から説明(当日の流れ、シフト変更など)、鈴木早から腕章を渡す

8:40 移動開始。8人で部室へ荷物を運ぶ。残りの30人程度は日吉六丁目公園へ向かう。

8:52 先発隊30人程度、公園着。既に小学生は10人位いた。E.C.O.部員のペア作り。

9:05 野口先生、公園着。小学生は続々と来る。

大学生と小学生のグループ作り。

9:30 第一隊、ごみ拾いに出発

9:50 最終隊、出発

10:15 第一隊、矢上小に到着。

10:40 最終隊、矢上小に到着。感想記入、ごみ収集など

小学生はグループごとに順次解散。

11:00 作業終了。E.C.O.部員ら、矢上小を出発。

11:15 日吉キャンパス着。ごみ置き場へ。解散。

拾ったごみの集計結果

正確なものがとれなかったため、集計はしなかった。吸い殻が多かったことは確実。

参加者数

E.C.O.部員：34人 慶應職員：1人

一般慶応生：2人程度

東大・早稲田・SFCからのヘルプ：5人・3人・1人の合計9人

小学生：最低85人、遅刻・早退など含め、おそらく100人強 幼稚園生：最低3人

保護者：最低11人、遅刻・早退など含め、おそらく20~30人程度

矢上小教職員：10人(うち7人が最初から最後まで参加)

E.C.O.部員：34人、一般参加者：130人程度、その他：10人

準備段階

1月

14(火)：環境週間企画の第1回全体ミーティング

ひょうら(日吉の商店街)のごみ拾いをする企画・及び並木道の吸い殻拾いをする企画がそれぞれ持ち上がる。

2月

4(火)：環境週間第2回全体ミーティング

ごみ拾い企画のメンバーが決定。担当者は四人。

ひょうらの自治会である日吉本町東町会との協力を目指し、交渉を開始。

3月

企画書を自治会に提出。協力は難しい、と言われるが、交渉を続ける。

4月

20日、自治会に正式に協力を断られ、方針変更。矢上小学校との協力を目指すことにする。

23日頃、矢上小に初めて電話。校長先生に協力を確約してもらう。

5月前半

企画スタッフに一年生が加わり、合計10人に。

ひょうらはごみがあまり落ちておらず、コースを綱島街道に変更(後に再変更)。ごみ拾いの際、拾ったごみの統計をとることと、小学生に感想を書いてもらうことが決定。感想は、日吉駅・矢上小・日吉キャンパス・公民館に載せてもらうように、交渉することが決定。

日吉駅に感想の交渉に行くが、「非常に難しい」と言われる。

5月後半

19(月)

企画担当で第1回ミーティング。

内容は現状確認と討議、今後の予定、仕事振り分けなど。

ポスターを、矢上小・日吉キャンパス・日吉公民館に掲示してもらうように、交渉することが決定(いずれも掲示してもらうことに成功)。

21(水)

矢上小の加藤校長先生、教務主任で六年生担任の野口先生と初顔合わせ。E.C.O.部員は5人が参加。

全面的に協力してもらえらることとなり、ごみ拾い当日以前に教室で授業前に宣伝する許可、及び小学校に宣伝のポスターを貼る許可を得る。

予定コースだった綱島街道は矢上小の学区外であるという理由で、変更される。矢上川沿いなどが候補に挙がる。(後に矢上川沿いの1コースに決定)

27(火)

第2回ミーティング。仕事分担などを決定。ポスター作成の日程を決める。

28(水)

五限後、野口先生と話し合い。E.C.O.部員4人が同席。

コースの詳細(集合場所なども)が正式に決定。

30(金)

ポスター作成。矢上小に模造紙2枚、日吉キャンパスにA3で2枚、地区センター分にA3で1枚。

野口先生が、保護者や地域の人に1400部配る「学校便り」にごみ拾い企画の告知文章を載せてくれる。

6月第1週(1~8)

小学生の安全面が問題となり、E.C.O.の全体ミーティングリストで討議。

4(水) 矢上小学校にポスターを貼る。

6(金) E.C.O.部員15人程度で、矢上川沿いの実際のコースを下見。

6月第2週(9~15)

12(木) 日吉キャンパスにポスターを貼る。

6月第3週(環境週間中、16~21)

17(火)

矢上小に企画の宣伝へ。

朝E.C.O.部員13人で矢上小学校に行き、朝の授業開始前の5分間を頂いて、教室で宣伝をして来た。3年生から6年生まで各3クラスと、情緒障害のクラスひとつ、

合計 13 のクラスで行い、宣伝できた合計人数はおおまかに $30 \text{ 人} \times 12 + 4 = 364$ 人、程度と思われる。

21(土) ごみ拾い本番。

今後の展望

昨年の矢上祭以降断絶していた、矢上小学校と協力できたことはよいと思う。矢上小は大変 E.C.O.に協力的であり、これを契機に矢上小の総合学習の時間や矢上フェスティバル(矢上小のお祭り)、矢上祭などでも協力していけたらよいと思う。E.C.O.部員の感想に何人が書いていたが、環境週間だけでなく、矢上小学校での環境教育に恒常的に関わっていければ、E.C.O.が学外とつながる貴重な機会となり、またそれをサークルの特長にすることもでき、サークルや個人がレベルアップできると思う。

また、協力してくれる見込みの薄かった自治会との交渉を長々と続けたことは、企画担当者のモチベーションが下がったので、よくなかった。

今回は雨が降ったら中止の予定だったが、来年度以降もしごみ拾いをやるならば、雨天時に勉強会なり代替案を考えておくべきだ。他にも、「参加人数が多かったら」「気温が高かったら」などと想像力を豊かにし、起こる可能性が低いケースについても対策を考えた方がよかった。

来年度以降の環境週間においても、矢上小とのコラボレーションは続けていきたい。ごみ拾いという形にこだわる必要はなく、別の形式をとっても全く構わないと思う。感想にあったが、矢上小だけでなく、商店街なども巻き込めればそれも面白いと思う。また、来年度以降は、環境週間全体に、「協力：矢上小学校」という名前をもらえるよう、早めに動いて行きたい。

協力

矢上小学校(校長先生、六年生担任・教務主任の野口先生ら)
木村平和氏、日吉駅、日吉地区センター
東京大学環境三四郎・早稲田大学環境 NPO 環境口ドリゲス

費用

- ・名札用シール(100個): 1,050円
- ・名札用ビニールテープとはさみ: 367円
- ・小学生の感想コピー代: 240円

合計: 1,657円

来往舎ギャラリースペース展示企画

エコギャラリー

企画概要

実施期間	2003年6月16日(月)～21日(土) 11～19時(土曜は13時まで)
実施場所	来往舎ギャラリースペース
企画説明	環境問題についてのパネル展示
目的	塾生・教職員が環境問題について考えるきっかけとなるように文字や写真を用いてビジュアル面で訴えかけること。

企画報告

初めは環境問題についての写真展のようなものにするつもりであったが、展示内容を詰めていくうちにA1程度の大きさの印刷物によるパネル展示をすることとなった。一人1テーマを選んで、文章は担当者一人一人に依頼した。ギャラリーは使い勝手のよい空間で、雰囲気のあるよい所であったが、立地が悪く開催していることが認知されづらかった。展示内容はタバコ問題を中心に据えて、PETボトル、弁当容器、リユース、横浜市のゴミ事情など、身の回りの環境問題について各自調べたものを、20枚程度のパネルに展示した。

簡易アンケートの集計結果

Q. エコギャラリーはいかがでしたか？

大変よかった	10名	無回答	2名
よかった	6名	合計	21名
普通	3名		
よくなかった	0名		
全くよくなかった	0名		

来場者数

16日(月)	20名			
17日(火)	19名			
18日(水)	-	終日閉鎖		
19日(木)	16名			
20日(金)	0名	2限のみ		
21日(土)	-	記録なし	合計	55名

準備段階

- | | |
|-------|--|
| 2月 | ・企画責任者決定 |
| 3月 | ・カメラクラブに写真の協力を依頼するも協力は得られず |
| 4月 | ・企画担当者が集まらず、進展なし
・下旬の全体ミーティングでコンセプトが具体化 |
| 5月前半 | ・企画担当者が決定
・第1回ミーティング(14日)各担当者のテーマ決定 |
| 5月後半 | ・企画名正式決定
・第2回ミーティング(21日)
・原稿中間×切(27日)
・第3回ミーティング(28日)
・根岸教授と話し合い |
| 6月第1週 | ・第4回ミーティング(6日) |
| 6月第2週 | ・印刷作業
・ギャラリーの設営(14日) |

今後の展望

とにかくギャラリーの場所がわかりづらく、そもそも来往舎内を人が通ること自体が少なかった。また、一般塾生には少々敷居の高いものに映ってしまったかもしれず、それによって来場者が少なかったのが残念である。来年以降は、第4校舎の廊下や来往舎入り口の広場など、人が気軽に見ることのできるスペースで実施したい。

もしくは同じく来往舎ギャラリーを使うとしたら、教職員を対象に据えてより高度で学術的な内容のものを展示するということも考えられる。

費用

・印刷費（A2以上）:	17000円
・印刷費（A3以下）:	1000円
・現像・フィルム代	: 7522円
・タバコ代（展示用）:	1250円
・雑費（テーブル等）	: 2047円
合計	: 28819円

塾生会館プロジェクト

文責:岩井 健

企画概要

塾内意識調査

実施期間	環境週間中 6月16日～20日
実施場所	塾生会館内
企画説明	分煙に関するアンケートを塾生会館利用者対象に実施
目的	塾生会館における分煙に対する塾生会館利用者の認識の調査

ごみステーション分別表示改善

実施期間	3月～6月
実施場所	日吉キャンパス
企画説明	ごみステーションの分別表示をよりわかりやすく改善する
目的	ごみ分別の一層の徹底と、塾生の理解を深めていただく

企画報告

環境週間中、塾生会館の各部室を訪れその場で回答していただいた。

非喫煙者	yes	no	合計	Yes 割合	No 割合	非喫煙者回答者数	割合
塾生会館の中で他人のタバコの煙が気になったことがある。	204	54	258	79%	21%	253	93%
塾生会館は自分たち非喫煙者にとっても過ごしやすい場所だ	123	121	244	50%	50%		
正直、タバコを吸う人には窓を開けて換気するなど気を使ってほしい。	246	15	261	94%	6%		
部室はタバコの煙がこもりやすいと思う。	225	26	251	90%	10%		

喫煙者	yes	no	合計	Yes 割合	No 割合	喫煙者回答者数	割合
塾生会館の中でよくタバコを吸う	16	5	21	76%	24%	20	7%
部室の中でもタバコを吸う	12	6	18	67%	33%		
タバコを吸うとき周りの人に気兼ねしてしまう。	11	9	20	55%	45%		
塾生会館の中でも専用の喫煙所を作ってほしい。	13	8	21	62%	38%		
塾生会館はいつでもどこでもタバコを吸える場所であるべきだ	10	11	21	48%	52%		
もし塾生会館内に十分に喫煙所があればそのほかの場所では吸わないと思う	8	12	20	40%	60%		

総回答者 273 名

ごみ分別表示が従来は（もえるごみ／かん／ペットボトル）のようになっていたがビンの分別が不明確、燃えるごみというものなにか（一般に言われる燃えないごみ、というのはどうしたら良いのか）という指摘があった。したがってこの事態を改善すべく分別を（可燃物その他／ビン・カン／ペットボトル）とした。また、この分別表示を説明するポスターを作製。これをキャンパス内ごみステーションの側面、中庭、塾生会館内に掲示した。また、環境週間中、塾生会館運営委員会の協力を得て、塾生会館内において分別を呼びかける放送を行った。

準備段階

- 3月 キャンパス内ポスター完成
- 4月 ごみステーション表示変更完了
- 5月後半 キャンパス内ポスター掲示開始
- 6月第1週 アンケート完成
- 6月第2週 キャンパス内ポスター掲示完了

今後の展望

今後このアンケート結果の考察を含め、塾生会館利用者の分煙に対する要望を捉え、利用者のできるだけ多くの支持が得られる有効な分煙対策を講じていきたい。

ひとまずゴミステーションの分別表示改善としては終了となるが、またある一定期間後に実際の分別状況や、その他外部からの指摘を勘案して、また改善の余地が認められた段階で活動を再開させたい。

協力

塾生会館運営委員会

慶應義塾大学日吉キャンパス

塾内意識調査

企画概要

- 実施期間 環境週間中6月16日～6月21日
- 実施場所 日吉キャンパス
- 企画説明 教員、一般塾生にアンケートを実施し、分煙などを中心としたキャンパスエコロジーについての教員、塾生の意識を調査する。
- 目的 教員、塾生の意識を調査することで、大学内の環境改善に役立てる。

企画報告

塾生・教員に対して、キャンパスエコロジーに関してのアンケートを実施した。集計結果から、学内の環境に関する意識を把握し、今後の活動の参考にしていく。また、集計結果は塾生新聞などの広報媒体に掲載した。

アンケート内容構成

- 1、分煙・タバコについて
- 2、ゴミ箱について
- 3、エコについて

アンケート配布回収方法

配布方法：教授へのアンケートを通して授業内でのアンケートの実施要請をし、了解を得た教授の授業内でアンケートを配布した。

回収方法：授業の行なわれる教室にエコ部員がアンケート回収ボックスを設置し、回収した。

アンケート総配布数，総回収数

教員用アンケート総配布数 274 枚
教員用アンケート総回収数 45 枚
塾生用アンケート総配布数 2338 枚
塾生用アンケート総配布数 1215 枚

アンケート回収率

教員用アンケート回収率 16.4%
塾生用アンケート回収率 52.0%

アンケート集計結果

教員用アンケート

(総枚数 45枚)

分煙・タバコについて

回答者数43人

質問文	項目	人数	割合
タバコをすいますか	YES (喫煙者用アンケートへ)	6人	14%
	NO (非喫煙者用アンケートへ)	37人	86%

喫煙者用

1 タバコを吸う理由はなんですか	a. おいしい	1人	17%
	b. なんとなく	2人	33%
	c. 吸わないと落ち着かない	1人	17%
	d. かっこいい	0人	0%
	e. ストレス発散	3人	50%
	f. やめたいがやめられない	2人	33%
	g. 自己主張	0人	0%
	h. その他	0人	0%
2 喫煙所で吸うようにしていますか	a. はい	6人	100%
	b. いいえ	0人	0%
3 設置してほしい場所	省略		
4 気をつけているマナー	a. 歩きタバコはしない	6人	100%
	b. 携帯灰皿を使う	4人	67%
	c. 公共の場では吸わない	4人	67%
	d. 周りの人に断ってから吸う	2人	33%
	e. 換気をする	2人	33%
	f. 特にない	0人	0%
	g. その他	0人	0%
	5 受動喫煙について知っていること	a. 喘息などの疾患に与える影響	4人
b. リウマチなどの関節炎への影響	0人	0%	
c. 心臓病の人に与える影響	3人	50%	
d. 女性(特に妊婦)に与える影響	3人	50%	
e. 肺がんの発生率が増加すること	5人	83%	
f. 胃がんの発生率が増加すること	1人	17%	
g. 他の人にストレスを与えること	3人	50%	
h. 何も知らない	0人	0%	
6 現状の喫煙対策をどう思いますか	a. 満足している	4人	67%
	b. 不満である	2人	33%
	c. 関心がない	0人	0%

非喫煙者用

1 タバコを吸わない理由はなんですか	a. 健康に悪い	28人	76%
	b. おいしくない	8人	22%
	c. 吸う必要性を感じない	26人	70%
	d. かっこ悪い	4人	11%
	e. タバコは高い	2人	5%
	f. 煙や臭いがいや	21人	57%
2 設置してほしい場所	省略		
3 喫煙者に気をつけてほしいマナー	a. 歩きタバコはしない	31人	84%
	b. 携帯灰皿を使う	13人	35%
	c. 公共の場では吸わない	25人	68%
	d. 周りの人に断ってから吸う	18人	49%
	e. 換気をする	14人	38%
	f. 特にない	1人	3%
	g. その他	1人	3%

4	喫煙者に一言	省略	
5	受動喫煙について知っていること	a、喘息などの疾患に与える影響	28人 76%
		b、リウマチなどの関節炎への影響	2人 5%
		c、心臓病の人に与える影響	7人 19%
		d、女性(特に妊婦)に与える影響	21人 57%
		e、肺がんの発生率が増加すること	31人 84%
		f、胃がんの発生率が増加すること	9人 24%
		g、他の人にストレスを与えること	19人 51%
		h、何も知らない	0人 0%
6	現状の喫煙対策をどう思いますか	a、満足している	9人 24%
		b、不満である	22人 59%
		c、関心がない	3人 8%

ゴミ箱について (回答者数45人)

1	分別表示が変わったのに気づきましたか	YES	9人 20%
		NO	36人 80%
2	以前と比べてどうですか(1でYESの人のみ回答)	目立つ	1人 2%
		変わらない	4人 9%
		目立たない	1人 2%
		よくわからない	3人 7%
3	ごみを捨てる際に不満だと思うこと	プラスチックの分別方法	13人 29%
		弁当容器の分別方法	7人 16%
		汁ものの処理	16人 36%
		投入口の大きさ	13人 29%
		近くにゴミ箱がない	6人 13%
		ゴミ箱自体の容量不足	10人 22%
4	横浜市のペットボトルの捨て方を知っていましたか	YES	13人 29%
		NO	30人 67%

学生用アンケート

総枚数 1215枚

分煙・タバコについて

回答者数1215人

質問文	項目	人数	割合
1 タバコを吸っていますか	a、はい	141	12%
	b、いいえ	1066	88%
2 喫煙所で吸うようにしていますか(喫煙者のみ)	a、はい	98	8%
	b、いいえ	39	3%
3 気をつけているマナー-or気をつけてほしいマナー	省略		
4 受動喫煙について知っていること	a、喘息などの疾患に与える影響	775	64%
	b、リウマチなどの関節炎への影響	80	7%
	c、心臓病の人に与える影響	221	18%
	d、女性(特に妊婦)に与える影響	743	61%
	e、肺がんの発生率が増加すること	1065	88%
	f、胃がんの発生率が増加すること	259	21%
	g、他の人にストレスを与えること	794	65%
	h、何も知らない	43	4%
5 現状の喫煙対策をどう思いますか	a、満足している	230	19%
	b、関心がない	329	27%
	c、不満である	591	49%
6 設置してほしい場所orほしくない場所	省略		

ゴミ箱について (回答者数1215人)

1 分別表示が変わったのに気づきましたか	YES	189	16%
	NO	967	80%
2 以前と比べてどうですか(1でYESの人のみ回答)	目立つ	49	4%
	変わらない	50	4%
	目立たない	53	4%
	よくわからない	57	5%
3 ごみを捨てる際に不満だと思うこと	プラスチックの分別方法	227	19%
	弁当容器の分別方法	138	11%
	汁ものの処理	293	24%
	投入口の大きさ	410	34%
	近くにゴミ箱がない	317	26%
	ゴミ箱自体の容量不足	434	36%
4 横浜市でのペットボトルの捨て方を知っていましたか	YES	530	44%
	NO	609	50%

エコについて

1 エコを知っていますか。	YES	420	35%
	NO	690	57%

学年別集計結果

分煙・タバコについて

		791 一年	325 二年	43 三・四年
項目	人数	人数	人数	人数
a	86	51	18	
b	740	274	36	
a	47	38	6	
b	25	12	2	
a	560	227	23	
b	248	106	18	
c	440	160	16	
d	299	125	17	
e	318	136	12	
f	41	12	2	
g	39	12	3	
a	515	200	28	
b	573	18	2	
c	143	59	5	
d	491	186	23	
e	712	272	34	
f	183	60	9	
g	504	284	33	
h	23	12	0	
a	126	65	10	
b	189	159	12	
c	338	164	20	

		791 一年	325 二年	43 三・四年
項目	人数	人数	人数	人数
a	11%	16%	42%	
b	94%	84%	84%	
a	6%	12%	14%	
b	3%	4%	5%	
a	71%	70%	53%	
b	31%	33%	42%	
c	56%	49%	37%	
d	38%	38%	40%	
e	40%	42%	28%	
f	5%	4%	5%	
g	5%	4%	7%	
a	65%	62%	65%	
b	72%	6%	5%	
c	18%	18%	12%	
d	62%	57%	53%	
e	90%	84%	79%	
f	23%	18%	21%	
g	64%	87%	77%	
h	3%	4%	0%	
a	16%	20%	23%	
b	24%	49%	28%	
c	43%	50%	47%	

ゴミ箱について

		791 一年	325 二年	43 三・四年
項目	人数	人数	人数	人数
1 YES	82	102	5	
NO	719	214	34	
2 目出つ	25	22	2	
変わらない	27	21	2	
目立たない	22	29	2	
よく分からない	29	23	5	
3 プラスチック	160	61	6	
弁当容器	98	35	5	
汁物	186	97	10	
投入口	273	127	10	
近くにゴミ箱	220	83	14	
ゴミ箱自体	298	126	10	
4 YES	371	141	18	
NO	426	166	17	

		791 一年	325 二年	43 三・四年
項目	人数	人数	人数	人数
YES	10%	31%	12%	
NO	91%	66%	79%	
目出つ	3%	7%	5%	
変わらない	3%	6%	5%	
目立たない	3%	9%	5%	
よく分からない	4%	7%	12%	
プラスチック	20%	19%	14%	
弁当容器	12%	11%	12%	
汁物	24%	30%	23%	
投入口	35%	39%	23%	
近くにゴミ箱	28%	26%	33%	
ゴミ箱自体	38%	39%	23%	
YES	47%	43%	42%	
NO	54%	51%	40%	

エコについて

		791 一年	325 二年	43 三・四年
項目	人数	人数	人数	人数
1 YES	268	132	20	
NO	512	161	17	

		791 一年	325 二年	43 三・四年
項目	人数	人数	人数	人数
YES	34%	41%	47%	
NO	65%	50%	40%	

喫煙者・非喫煙者別アンケート集計結果

分煙・タバコについて

		141 喫煙者	1066 非喫煙者
	項目	人数	人数
	a	98	
	b	39	
	a	48	799
	b	35	384
	c	38	596
	d	55	407
	e	50	469
	f	18	45
	g	9	50
	a	78	697
	b	9	71
	c	23	198
	d	79	664
	e	113	952
	f	25	234
	g	96	698
	h	10	33
	a	45	185
	b	65	264
	c	40	551

エコについて

		喫煙者	非喫煙者
	項目	人数	人数
1	YES	49	402
	NO	87	628

		喫煙者	非喫煙者
	項目	人数	人数
	a	70%	
	b	28%	
	a	34%	75%
	b	25%	36%
	c	27%	56%
	d	39%	38%
	e	35%	44%
	f	13%	4%
	g	6%	5%
	a	55%	65%
	b	6%	7%
	c	16%	19%
	d	56%	62%
	e	80%	89%
	f	18%	22%
	g	68%	65%
	h	7%	3%
	a	32%	17%
	b	46%	25%
	c	28%	52%

エコについて

		喫煙者	非喫煙者
	項目	人数	人数
1	YES	35%	38%
	NO	62%	59%

学部別アンケート集計結果

分煙・タバコについて

		法学部	経済学部	商学部	文学部	理工学部	医学部
	項目	人数	人数	人数	人数	人数	人数
	a	27	35	40	12	18	4
	b	231	178	230	149	175	58
	a	17	25	28	9	12	2
	b	8	10	11	3	5	2
	a	166	131	175	109	129	40
	b	12	12	16	12	15	13
	c	37	46	46	19	37	24
	d	154	132	174	105	103	42
	e	215	190	266	146	165	51
	f	58	57	51	11	51	29
	g	179	148	190	84	130	45
	h	2	12	15	1	4	2
	a	57	48	42	27	31	9
	b	61	74	65	37	58	17
	c	130	101	99	94	99	35

分煙・タバコについて

		法学部	経済学部	商学部	文学部	理工学部	医学部
	項目	割合	割合	割合	割合	割合	割合
	a	11%	16%	13%	7%	9%	6%
	b	90%	80%	72%	93%	81%	92%
	a	7%	11%	9%	6%	6%	3%
	b	3%	4%	3%	2%	3%	3%
	a	65%	30%	55%	68%	61%	63%
	b	5%	4%	5%	7%	7%	21%
	c	14%	11%	14%	12%	18%	38%
	d	60%	59%	55%	65%	48%	67%
	e	84%	48%	84%	91%	77%	81%
	f	23%	11%	16%	7%	24%	46%
	g	70%	36%	60%	52%	60%	71%
	h	1%	4%	5%	1%	2%	3%
	a	22%	8%	13%	17%	15%	14%
	b	24%	17%	20%	23%	27%	27%
	c	51%	30%	31%	58%	45%	56%

ゴミ箱について		法学部	経済学部	商学部	文学部	理工学部	医学部
項目		人数	人数	人数	人数	人数	人数
1	YES	72	31	41	16	25	10
	NO	171	186	268	144	164	50
2	目出づ	13	9	13	2	9	4
	変わらない	14	14	12	1	7	2
	目立たない	17	11	14	1	8	2
	よく分からない	12	8	25	7	5	2
3	プラスチック	45	47	55	28	37	17
	弁当容器	27	27	37	15	23	11
	汁物	73	60	78	38	47	18
	投入口	106	66	101	48	73	23
	近くにゴミ箱	64	65	86	33	59	15
	ゴミ箱自体	106	74	103	59	69	31
4	YES	116	74	124	75	86	38
	NO	125	133	188	89	98	23

ゴミ箱について		法学部	経済学部	商学部	文学部	理工学部	医学部
項目		割合	割合	割合	割合	割合	割合
1	YES	28%	14%	13%	10%	12%	16%
	NO	67%	83%	84%	89%	76%	79%
2	目出づ	5%	4%	4%	1%	4%	6%
	変わらない	5%	6%	4%	1%	4%	3%
	目立たない	7%	5%	4%	1%	4%	3%
	よく分からない	5%	4%	8%	4%	2%	3%
3	プラスチック	18%	21%	17%	17%	18%	27%
	弁当容器	11%	12%	12%	9%	11%	17%
	汁物	28%	27%	25%	24%	22%	29%
	投入口	41%	30%	32%	30%	34%	37%
	近くにゴミ箱	25%	29%	27%	20%	28%	24%
	ゴミ箱自体	41%	33%	32%	37%	32%	49%
4	YES	45%	33%	39%	47%	41%	60%
	NO	49%	60%	59%	55%	45%	37%

エコについて		法学部	経済学部	商学部	文学部	理工学部	医学部
項目		人数	人数	人数	人数	人数	人数
1	YES	98	75	102	71	56	18
	NO	127	133	171	93	151	42

エコについて		法学部	経済学部	商学部	文学部	理工学部	医学部
項目		割合	割合	割合	割合	割合	割合
1	YES	38%	34%	32%	44%	27%	29%
	NO	49%	60%	54%	58%	55%	67%

教授用アンケート

【意見項目の回答】

<分煙・タバコについて>

非喫煙者のアンケートの中の4、「喫煙者に一言」という質問には以下のような回答があった。

- ・吸うときはマナーを持ってほしい（多数）
- ・喫煙が迷惑であるということを考えてほしい
- ・吸う前に吸っていいか聞いてほしい
- ・せまい場所では吸わないでほしい

分煙・タバコのアンケートの最後の質問で現状の喫煙対策について聞いたところ、非喫煙者の中では「不満である」という回答が半数以上あった。そのなかで出た喫煙対策についての意見には次のようなものがある。

- ・喫煙ルームを作ってほしい
- ・喫煙所が明確にわかるようにしてほしい
- ・喫煙所は人の通らないところに設置してほしい
- ・学内をすべて禁煙にしてほしい
- ・喫煙所には空気清浄機を置いてほしい
- ・煙がこもる室内の喫煙よりは屋外での喫煙の方が望ましい

<ゴミ箱について>

ゴミ箱などに関して意見・要望に関しては次のような回答があった。

- ・横浜市ではどういうものをどう分別するかを示すべき
- ・並木・グラウンド等にあるゴミ箱にカラスが集まり、さらにごみが散乱している
- ・紙のリサイクル用ゴミ箱が活用されるとよい

塾生用アンケート

【意見項目の回答】

<分煙・タバコについて>

- ・ 現在の喫煙対策について、結局守れていない人が多い。
- ・ 禁煙にしてほしい。(多数意見)
- ・ 歩きタバコをしている人がまだいる。(多数意見)
- ・ 喫煙所の換気が悪い。
- ・ 本格的にスペースを分けない限り、煙がもれてしまって無意味。
- ・ 喫煙者が守っていないので意味が無い。
- ・ 現実としてタバコ税で税収が助かっているのも事実なので、喫煙だけを訴えても意味が無い。
- ・ 喫煙対策は、面倒くさい。
- ・ 看板設置後は大きな効果があったが、最近は平気で無視する人が増えてきている。
- ・ 禁煙が進みすぎ。喫煙者のマナーが悪い。
- ・ 歩きタバコが腕に当たりそうで本当に怖い。
- ・ 喫煙所が煙たいので通りたくない。
- ・ 受動喫煙の害があるので、所かまわず吸って欲しくない。
- ・ 近くで吸われると、タバコの臭いが付く。
- ・ タバコ自体悪い。タバコ税を上げて、財源にするべきだ。
- ・ 校舎の中でタバコが吸える必要があるのか。
- ・ 完全空間分煙して欲しい。
- ・ 歩行喫煙の灰が服について憤りを覚えました。
- ・ 周りの人のことも考えて欲しい。
- ・ 食事中的タバコをやめて欲しい。
- ・ 階段のところなど、人がたくさん通っているところで吸われると迷惑だ。
- ・ 室内での喫煙は、分煙されていてもストレスである。
- ・ 塾生会館入り口が煙たすぎる。
- ・ 構内でタバコを販売しないで欲しい。

<ゴミ箱について>

- ・ ゴミ箱を増量して欲しい(個数・容量)。(意見多数)
- ・ 生ゴミを捨てられる場所が欲しい。
- ・ 校内で、ペットボトルのキャップとラベルを別にして捨てるよう表示すべき。
- ・ もっと細かく分別できるように表示して欲しい。

- ・ 可燃物用のゴミ箱がないのが疑問である。
- ・ 分別がしっかりなされていない（特にペットボトル）。
- ・ ゴミ箱の入れる口が小さくて困る。
- ・ 満足。

アンケート結果考察

分煙・タバコについては教員・塾生ともに一致した意見のようであった。両者とも現在の喫煙対策には不満をもっている人が多数である。特に、歩きタバコに対する不満と分煙対策への無意味さを指摘する声が多かった。また、全面禁煙にするべきであるとの意見も多くみられた。それに対して、喫煙者の意見は現在の喫煙対策に不満はあまり感じておらず、気をつけているマナーに関しても非喫煙者が気をつけて欲しいマナーとの間には両者間のギャップがみられた。非喫煙者の多くは、少なからずみな現状の喫煙対策に不満を持っているようである。

ゴミ箱に関しては分量に対する不満が多くみられた。また、ペットボトルの分別が大学内では徹底していないとの意見も多くあった。

準備段階

- 3月 第一回アンケートミーティング：アンケート実施期間・方法決定
- 4月 第二回アンケートミーティング：アンケート内容
- 5月 第三回アンケートミーティング：アンケート内容
アンケートの作成
教授へのアンケート実施
- 6月第1週
アンケート印刷
教授アンケートの回収
アンケート回収ボックスの作成
- 6月第2週
各教授へ授業内で配布するアンケート用紙を配布
アンケートボックスの作成

今後の展望

今年のアンケートの結果を大学内の喫煙対策・ゴミ箱対策に役立てていきたい。またその成果を、環境週間を通してみていく必要があると思う。

協力

協力して下さった教授（敬称略）

石手 靖	体育研究所 専任講師
柏崎 千佳子	経済学部助教授
小菅 隼人	理工学部助教授
小林 宏充	法学部助教授
境 一三	経済学部教授
篠原 しげ子	体育研究所 助教授
篠原 俊吾	法学部助教授
鈴木 順二	商学部教授
種村 和史	商学部助教授
長井 孝紀	医学部（生物）
根岸 寿美子	商学部教授
野口 和行	体育研究所 専任講師
Helen Julia Ballhatchet	経済学部教授
宮崎 洋	商学部教授
村山 光義	体育研究所 専任講師
森 泉	理工学部
安井 伸	商学部
吉田 恭子	文学部

塾生会館運営委員会

慶應義塾大学日吉キャンパス

費用

印刷費 大学側援助

その他雑費 500 円

講演会

東京電力環境シンポジウム

企画概要

- 実施期間 2003年6月16日(月)
- 実施場所 三田キャンパス 西校舎ホール
- 企画説明 東京電力株式会社の環境部の方による、東京電力の環境対策についての講演
- 目的 自分たちの生活にとって身近な存在である電力をとりあつかっている企業の環境対策を知ること、新たな知識を得るとともに環境問題の身近さについて感じてもらう

企画報告

環境週間を三田キャンパスで行うのは今年からの新しい試みである。2年生が中心となって活動している E.C.O.では、現在三田キャンパスに在籍し、かつ活動している文学部の2年生が2人しかいないことから、今回の三田キャンパスでの環境週間は学生参加型の企画が二つしかできなかった。その目玉となるのがこの環境シンポジウムだったわけである。

この企画をすすめるにあたっては、一昨年に E.C.O.の活動として行われた IBM 株式会社の人事部と環境部の方に講演していただいた就職シンポジウムを参考にした。

さて、本企画の内容は、はじめ慶応大学の教授による講演を考えていた。しかし、3、4年生が多い三田キャンパスでは企業の方による講演のほうが学生の興味をひくであろうという考えから予定を変更し、企画担当者浅岡の知り合いの方が在籍している東京電力株式会社の方をお招きすることになった。また、一昨年同様、人事部と環境部の方をお招きし講演していただく構想だったが、人事部の方の都合がつかず環境部の緒方毅さんのみとなった。

広報の一方法として講演の一週間前から昼休みに中庭でチラシを配った。下記のアンケートからもわかるように、チラシ配布の効果はある程度あったと思われる。

当日は前の時間にホールを使用していた授業の学生がホールの鍵をなくすということがあったため余波を受けて準備が遅れ、そのまま開場、開始、終了時間が15分ずつ

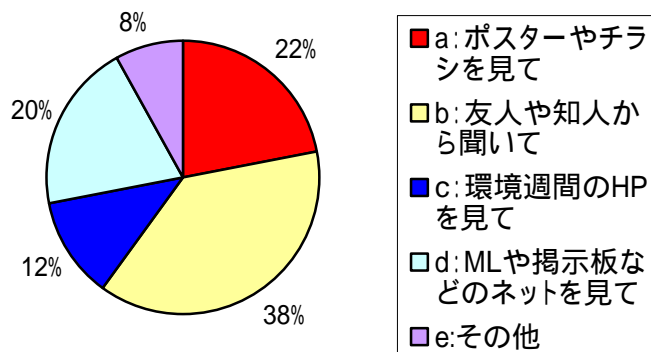
ずれてしまった。講演も最後は少し駆け足になってしまった。しかしそれ以外は大きなハプニングもなく無事講演を執り行うことができた。

当日のタイムテーブル

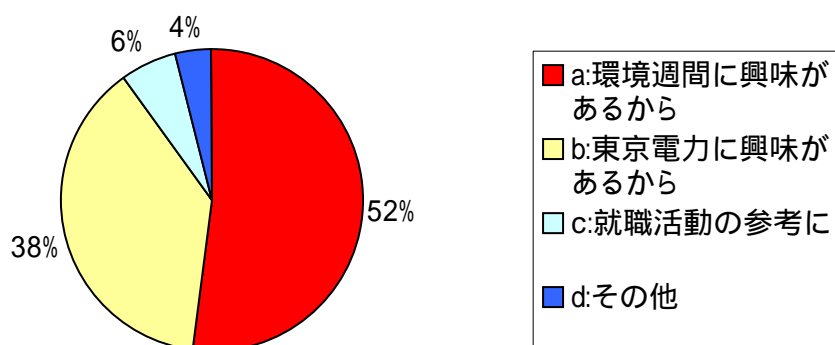
- | | |
|---------|--|
| 15:00 ~ | ・AV 機器準備 (卓上、スクリーン、パソコン、ビデオ、カセットテープ)
・接待
・会場準備 (テーブルで後ろの座席を封鎖、受付+レジユメなど準備、花を生ける) |
| 15:45 ~ | ・接待
・受付
・会場案内 |
| 16:15 ~ | ・受付 |
| 16:45 ~ | ・講演開始
・ビデオ撮影 |
| 18:00 ~ | 質疑応答 |
| 18:15 ~ | ・講演終了
・片付け |
| 18:40 ~ | 接待 |
| 20:30 ~ | 接待終了 |
| 21:30 ~ | 解散 |

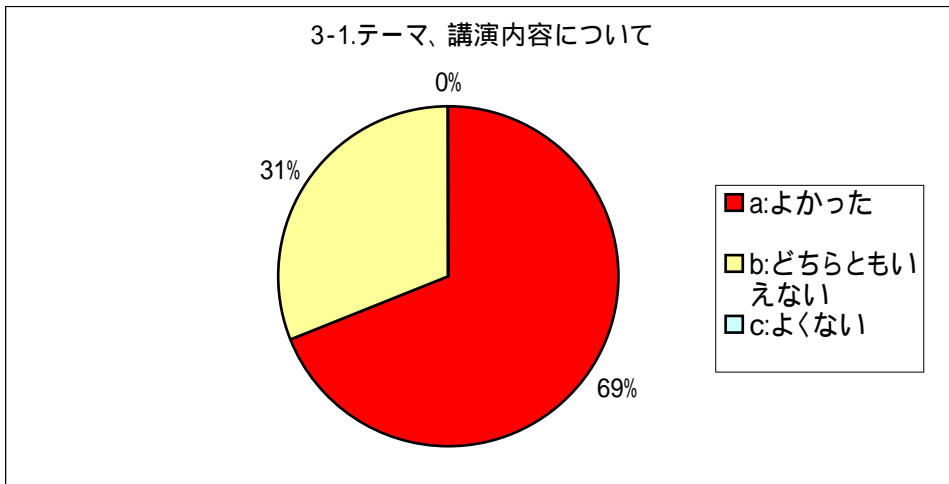
アンケートの集計結果

1. 本日の企画をどのようにして知りましたか？

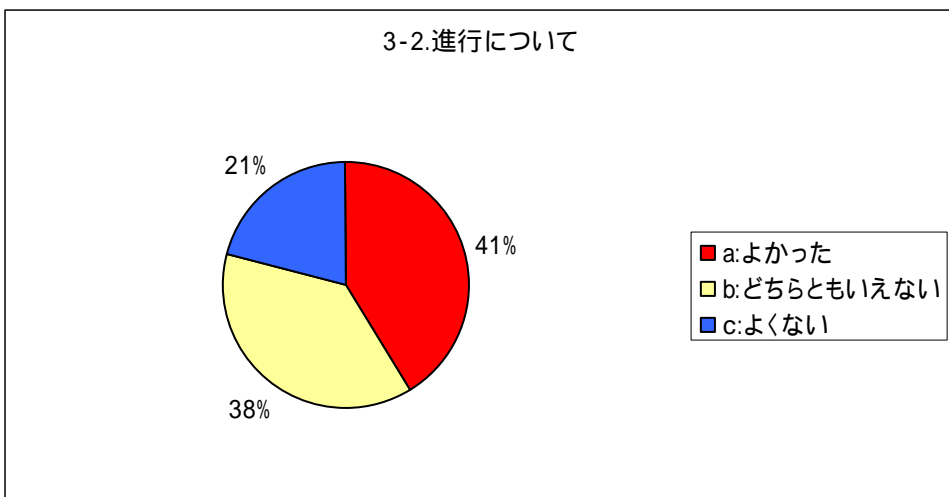


2. 本日のご来場目的はなんですか



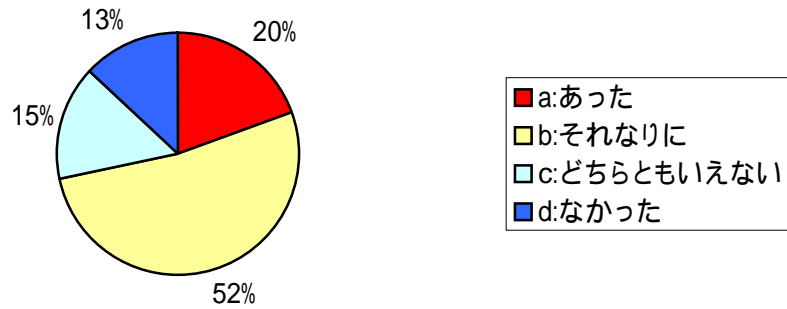


- 回答の理由：
- ・わかりやすかった
 - ・いかに真剣にとりくんでいるのかがわかった
 - ・概要の部分をもう少し短くして東電のボランティア活動などを重点的に講義してほしかった
 - ・もう少しテンポがよくてもよかった
 - ・誰をターゲットにしているか不明確なため講演内容が一般的なものにとどまってしまった

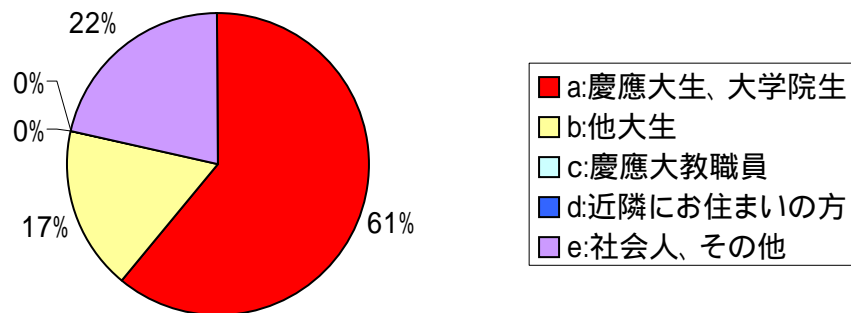


- 回答の理由：
- ・受付の態度が悪かった
 - ・開始が遅れた
 - ・少し一方的過ぎた

4. 今回の講演をきっかけに環境について新たに学んだことやこれまでの環境に対する認識を変えさせるようなことはありましたか



5. あなた自身について該当するものをお答えください



来場者数 のべ100人

準備段階

- 4月
 - ・ 三田で講演会を行うことを決定
 - ・ 東京電力株式会社を呼ぶことを決定
 - ・ 日時を決定
- 5月前半
 - ・ 教室申請願を学生課に出す
 - ・ 教室を西校舎ホールに決定
 - ・ 広報スタート

- 5月後半
 - ・当日使用するステッカーなどの申請
 - ・ 講演会用HP開設
 - ・ 当日講演終了後、打ち上げを行うことを決定
 - ・ ML 宣伝文作成
 - ・ 打ち上げ用のお店下見
 - ・ 広報
- 6月第1週
 - ・ポスター完成
 - ・ビラ完成
 - ・ ステッカー用ポスター作成
 - ・ 打ち上げ用お店下見、
 - ・ 広報
- 6月第2週
 - ・ビラを昼休みに毎日配布（1日約80枚のペース）
 - ・ 当日用マニュアル作成
 - ・ 当日用アンケート作成
 - ・ 当日の流れ作成
 - ・ リハーサル（内田、多田、山口、近藤マ）
 - ・ 打ち上げ用お店、花を予約
 - ・ 広報

今後の展望

今回の一番の課題は広報だった。具体的な広報をはじめたのが約一ヶ月前だったのでラストスパートが大変だった。しかもポスターを貼ってよいと指定されている場所が学生の目に付かない所であり、大きさも小さなものにとどめられた為学生の認知度はチラシ配りをするまではかなり低かった。むしろほとんどないに等しかった。

今後もこのような状態が続くのであれば、三田キャンパスでのイベントポスター告知は成果が見込めないだろう。そのためにもポスターに変わるさまざまな手段を模索していく必要がある。そして、次回このような企画を行うときには、一ヶ月前よりももっと早くからなるべく企画をつめ、広報を始める必要がある。

そして、今後三田キャンパスで講演会を企画する場合は、やはり今回のように近い将来自分の就職に関係してくるであろう企業の方による講演の方が、一般の講師の方による講演形式よりも学生に親しみをもってもらえだろう、という印象をうけた。ターゲットを絞り、その様子や構想を講師の方にきちんとお伝えした上で、さらに内容の濃い企画にしていきたい。

費用

- ・カセット、ビデオテープ代：388円
- ・お花代：6300円
- ・資料送付代：4170円

協力

東京電力株式会社

三田商店街とのタイアップ企画

三田商店街でのゴミ拾い

文責：東寿浩

企画概要

実施期間

6 / 19(木) 15:00 ~ 1600

参加者 (E.C.O.部員含む) は14:50集合。解散は16:10。

実施場所

三田商店街

企画説明

慶応大学三田キャンパスの近くに位置する三田商店街と協力して、その地区である三田商店街の歩道を塾生と商店街の組合員と一緒にゴミ拾いをする企画。

目的

大学と、その近辺の商店街とは、密接な関わりをもってきた。しかし、大型店舗やフランチャイズチェーン店などの進出によって、商店街のあり方が考え直される時期に来ている。このような状況の中で、大学生と商店街が共同で作業に取り組むことは、地域の振興につながり、また大学生にとっても学問を実践する場となることが予想される。また、近年は環境問題が今後の人類の存続に影響を与えるほどの問題となっており、様々な立場からの取り組みが期待されるが、これに対しても大学生と商店街が協力して、地域からの運動として取り組んで行くことは、様々な地域での活動に大きな影響を与えることになると考えられる。

企画報告

4月中旬に三田での開催が決まり、企画書を三田商店街に提出。その後五月の下旬に三田商店街が正式に承諾し、企画の開催が決定。広報は一般塾生にもポスターで行ったが、主には環境系研究会に所属している塾生を中心に行った。当日の準備(広報の依頼、ゴミ袋、必要道具など)の準備は商店街が主に担当し、E.C.O.としては広報、企画の骨組みを担当した。

当日のタイムテーブル

- 14:30 商店街と事前の打ち合わせ
- 14:50 参加者集合（東門）
- 15:10 開始（10分押し）
- 16:15 ゴミ拾い終了、商店街の事務所へ
- 16:20 商品券を渡して、解散

拾ったごみの集計結果

正確な集計はしておらず、ゴミの処理は三田商店街に依頼したため、不明。

参加者数

E.C.O.部員：6人 一般慶應生：11名（うち細田ゼミ9名）

準備段階

4月

三田企画の発足が決定し、商店街との共同企画の話が持ちあがる。
商店街でのゴミ拾いと、MY 箸キャンペーンを呼びかける

5月前半

MY 箸キャンペーンは実現が難しいということで却下。
ゴミ拾いのみの検討にする。

5月後半

23日

商店街が正式に開催を決定。
参加者に商品券500円分を配ることになる。
また、港区との協力も含めて動き始める。

26日

日程を6月19日と提案する（29日に正式決定）。
商店街から、ガムなどを取り除けないか、と打診される（無理と判明）。

6月第1週（1～8）

4日

参加者に配る商品券の額が1000円になる。

6日

広報作戦の決定。経済学部環境系の授業や、環境経済のゼミを中心に広報する作戦に決定。また川田さんに企画書を提出したところ、認可される。

6月第2週(9~15)

10日

広報文の作成開始。13日に完成。

14日

ビラの作成(担当山口)

6月第3週(環境週間中、16~20)

17日

ビラ広報開始(昼休み)
商店街との話し合いで、
当日のゴミ拾いの手順(4箇所からスタート)を決定する。
ポスターに誤植があることが判明し、日吉で刷りなおし。

18日

3限の環境経済の授業でポスター配り。
大沼ゼミ、細田ゼミにポスター配布。

19日

当日。
直前まで広報。

今後の展望

今回は初回ということもあり、商店街、E.C.O.双方手探りという感じが拭えなかった。参加人数にしても、広報をもう少し工夫すれば人が集まったと思われる。具体的には、環境系ゼミをまず中心に広報し、環境系ゼミの交流にもつながることをアピールし、続いて環境系の授業等でビラを配り、最後に中庭でビラを配るべきである。さらに、それらはビラの内容を変えるなどの工夫も必要だろう。また、商品

券を配るという形と港区役所との協力だが、これらは出来れば継続させていきたい。今回の企画は、商店街と大学の新しい関係を考える試金石になったのでは、と自負している。これをきっかけに、商店街を再発見するとともに、地域経済について考える塾生が増えることを願っている。

共同開催

三田商店街振興組合

費用

商品券、必要道具は全額商店街が負担。

アンケートの実施（三田）

責任者：多田裕之介

企画概要

実施期間：6月9日（月）～6月20日（金）

実施場所：三田キャンパス

企画説明：日常のキャンパスライフにおいて、一般塾生・教員・職員はどのくらいキャンパスエコロジーについて考えているのかを問うアンケートの実施

目的：三田キャンパスの塾生の環境意識を調査し、E.C.O.がこれから三田キャンパスで活動する際の参考にするため。

また、アンケート用紙に「東京電力講演会」の宣伝を載せることで、集客数の増加を図った。

企画報告

三田キャンパスにおいて日吉でも行った塾内意識調査を三田でもデータを取るために行った。「分煙・タバコについて」「三田キャンパスのゴミ箱について」の項目を作成し、塾生に対して配布し、回収、集計した。

詳細は以下の通り。

アンケート内容構成

■ ゴミ箱について

設問	回答	合計	%
ゴミ処理の仕方	a 分別する	139	87.4%
	b 分別しない	10	6.3%
	c ポイ捨て	0	0.0%
	d 持ち帰って捨てる	0	0.0%
	e その他	0	0.0%
ゴミ箱について要望・不満	a 種類別に設置	54	34.0%
	b 喫煙所の隣	3	1.9%
	c 喫煙所の隣 ×	9	5.7%
	d 多数設置	46	28.9%
	e 投入口大	29	18.2%
	f 大きなの	21	13.2%
	g 統一したもの	13	8.2%
	h 案内表示	21	13.2%
	i 色でわかりやすく	11	6.9%
	j ペットボトル少ない	46	28.9%
	k カン・ビン少ない	9	5.7%
	l 特になし	26	16.4%
	m その他		

■ 分煙，タバコについて

設問	回答	合計	%
喫煙者か否か？	はい	27	17.0%
	いいえ	132	83.0%
喫煙所で吸うか？	はい	18	11.3%
	いいえ	9	5.7%
気にするマナー	a 歩きタバコ	107	67.3%
	b 携帯灰皿	63	39.6%
	c 公共の場	69	43.4%
	d 断ってから	61	38.4%
	e 換気	73	45.9%
	f 特にない	5	3.1%
	g その他		
受動喫煙の害の知識	a 呼吸器疾患	96	60.4%
	b 関節炎	5	3.1%
	c 心臓病	19	11.9%
	d 妊婦	116	73.0%
	e 肺がん	135	84.9%
	f 胃がん	33	20.8%
	g ストレス	114	71.7%
	h 何も知らない	5	3.1%
喫煙対策について	a 満足	37	23.3%
	b 関心がない	21	13.2%
	c 設置場所改善	48	30.2%
	d 不満	48	30.2%

	c、dの具体策		

■ 分煙，タバコに関するアンケートのその他の項目についての回答

サンプル番号	【タバコ】 気にするマナー(その他)
1	煙が他の人の方に向かわないように
32	風向き
48	子供のそばでは吸わない
49	歩きタバコは許せるが、風向きを考えて吸って欲しい、人ごみの中は勘弁
83	吸わない人の近くで吸わない、灰皿のない所で吸わない
94	禁煙する
153	煙を他の人に向けない
155	タバコ所のポイ捨てはやめて欲しい、禁煙場所では絶対に吸わないで欲しい

サンプル番号	【タバコ】 喫煙対策について(具体策)
3	不満だが喫煙は各々のマナーの問題になってくると思うので改善するのは難しいと思う
4	灰皿がなくてタバコを捨てる人が多い
5	徹底してください
6	全面禁煙がベスト
7	タバコをなくす
8	喫煙についてヒステリックすぎる気がする
10	分煙は嫌
14	完全分煙にして欲しい
18	煙草吸うなよ、ウザイよ
19	さらにもっと隔離する
20	もっと喫煙所が欲しい
31	灰皿が少なすぎてポイ捨てが目立っている、喫煙所は大事だけど少なすぎると思う。 歩きタバコだけ禁ずるべきだ
32	隔離されるのは構わないが、もっとスペースを増やして欲しい。 喫煙したい時にスペースがないと歩きタバコなども増えてしまう
33	歩きタバコが多い
36	同フロア内に喫煙所と禁煙場所がある
41	歩きタバコが明らかにされている
57	もう少し喫煙場所を設ける

63	喫煙場所と禁煙場所をもっと厳しく分けるべき
	喫煙所が少なすぎる。
64	いまタバコの喫煙人口は学生と女性が多いから大学にはたくさん喫煙所があっても…
70	換気して欲しい、臭い
71	歩きタバコは厳しく罰して欲しい
72	分煙されていても風向きによって喫煙所の煙が流れてくることがある
78	歩きタバコがなくなる！
81	ファミレスやカフェで喫煙所と禁煙所を分けているが、完全に分離されてないから意味がないところが多い。 階を分けたり、三田の TURRYS のように別の部屋にして欲しい。物理的に不可能なら全て禁煙にして欲しい
82	勝手に喫煙所以外の所で吸っている人がいて迷惑だ
83	ポイ捨てがまだまだ多い。バイトでは外回りの掃除もするが、ゴミの殆どがタバコの吸殻です。 あとJTのCMは内容がない上に偽善的でむかつく
85	喫煙場所を通路などに設置しないで、隅のほうに設置する
91	気軽に吸えるから、煙草の値段を高くすべき
93	みんな禁煙する
94	喫煙所を極限まで少なくして喫煙者に 精神的圧迫(お前は既にマイノリティーなんだ)を与え、喫煙を止めさせるように導く
103	通り道に喫煙所を設けないで欲しい
104	キャンパス内を禁煙にして欲しい
105	目立つように判り易くする
107	喫煙地図を作成し、どこで吸えばよいか示す
108	もっと強く広告したほうが良い
110	喫煙所を端の方にする(非喫煙所優先の配置にする)
111	駅から大学までもやめよう
114	完全禁煙にすべき、公共の場だから
115	関心を持って人が少なすぎるので、意識を高めることから始めないと何も進まないのではないか
120	臭いがつく
121	空調が同じだったりすると結果的に同じことがある
123	空間で煙がさえぎられるとは思わない。エアウォールなどの設置を薦めます
128	受動喫煙、歩行喫煙を完全に無くすべきだと思う
130	完全に無くして欲しい
133	喫煙所を色々な場所に設置することによって、それ以外の場所で喫煙する人が減少すると思う。 喫煙所は排気に関して徹底した上で、出来る限り閉空間にすべきだと思う

137	全面禁煙でよい
138	マナーの悪い喫煙者は依然としているので、罰金等の罰則をより厳しいものとする
141	キャンパス内の人のどう設置に設置されているので、通りかかる人が少ない場所に喫煙所を設置すべきである
142	普通に歩いて吸っている人はまだいる
151	喫煙室を作って、それ以外は吸えないようにする(三田キャンパス内に4,5ヶ所)
153	効率的に分煙できるようにしてほしい

サンプル番号	【ゴミ箱】 ゴミ箱について要望・不満
4	どうしてもっときちんとした分別をさせないのか
55	もっと分別を細かくしてほしい
57	喫煙所をもっと欲しい(ポイ捨て防止のため)
126	ゴミ箱を軽くしてほしい
127	ペットボトルのゴミ箱のないゾーンでは燃えるゴミに捨てていいのか？ 一般の人にペットボトル用を探して捨てる気力はないと思う。
135	可燃ゴミと不燃ゴミの区別をしてほしい
136	ペットボトル以外にプラスチック製品用を作ってほしい
140	わからない
143	ゴミ箱によって記載が異なる点
149	使用済みの紙(コピー用紙)を試験期間以外にも回収してほしい
156	より分別の種類を多くしてほしい。例えば紙用のゴミ場とか

別紙参照

アンケート配布回収方法

昨年度のアンケート実施は日吉で塾生・教員・職員の3者に対して配布を行ったが、今回の三田でのアンケート実施は塾生に対してのみ行った。

配布方法は、以下の通り

三田キャンパスに通う E.C.O.部員が所属するゼミナールのゼミ員(三田キャンパスに通う3年生・4年生)に配布

6月16日に環境週間の一貫として行われた「東京電力講演会」の場にて配布

アンケート総配布数、総回収数、回収率

配布枚数（印刷数） : 400 枚
アンケート回収枚数 : 159 枚
アンケート回収率 : 39.75%

アンケートの集計結果

別紙参照

準備段階

5 月 下旬 : 塾生意識調査[日吉版]の完成
6 月第 1 週 : それをもとに塾生意識調査[三田版]の作成・完成
6 月第 2 週 : 配布

今後の展望

集計結果を今後、分析・考察した上で、E.C.O.の活動に役立てていくつもりである。具体的には、環境への呼びかけについての方法（ポスター作成 etc）の検討などに利用する。

協力

日吉学事センター

費用

大学側に印刷機の使用許可・古紙 100%白色度 70%のコピー用紙を提供していただいたため、費用はかからなかった

印刷代	¥ 0
雑費	¥ 0
合計	¥ 0

広報活動

文責：酒井一樹

活動概要

活動説明

ポスター・パンフレットなどの広報媒体やウェブツール・各種メディアなどを利用することにより、環境週間と、そこで行われる各企画のPRを行なう。

目的

塾生・教員・職員や近隣住民をはじめとする多くの人に環境週間開催企画に来てもらうこと

環境週間プロジェクトを世間一般に広く認知してもらうこと

活動報告

学内での広報活動

学内においては、ポスター（環境週間全体のポスターと、企画ごとのポスター）・立て看板にて宣伝を行った。

また、イベントに来てくださった方へのパンフレット配布、イベント直前のチラシ配布なども行った。

周辺地域での広報活動

環境週間では、周辺地域の住民をも巻き込むことを目的としている。そこで今回は学内だけでなく、日吉キャンパスの近隣地域・ひょうら商店街などにおいてもポスターの掲示を行った。

ウェブ上での広報

ウェブ上での広報としては、「ホームページ」と「ML&BBSでの宣伝」の2つが挙げられる。

・ホームページ (<http://y7.net/ecoweek/>)

内容は環境週間についての説明・メインテーマである「分煙」の解説と開催企画の紹介で、昨年度の報告ページなども作ってデータベースとしての役割も果たした。また、BBSはE.C.O.のホームページで使用しているものを共用した。

今回は東京大学・法政大学も同時開催したため、トップページを3大学で共有するという新しい試みも行われた。日吉環境週間のホームページには慶應義塾大学の

ホームページからもリンクが張られ、最高で1日263アクセスを記録した。

各企画の紹介に関しては、各企画の担当者に企画紹介文を提出してもらい、それを必要に応じて加工し、ホームページにアップした。ひとつ問題なのは、ホームページを、担当者である酒井の個人のサーバーに置いてしまったため、来年度は別のサーバーに新たにホームページを作らなければいけないということである。こういう問題を避けるためにも、E.C.O.の独自のドメインを取得するということも検討していきたい。

・ML & BBSでの宣伝

ML・BBSでの宣伝には、宣伝文を作成し、それをE.C.O.メンバーの所属するML(メーリングリスト)や環境系・イベント宣伝系の掲示板などで宣伝した。宣伝文を作る際には内容を簡潔に、短くしたのでたいした苦情もなく、良い反応を得られた。中には自分のホームページのトップページでニュースとして紹介して下さった方もいた。

学内メディアの取材・紹介

・塾生総合研究所 (<http://www.jukusei.org/>)

履修や学生生活に関する情報誌「Lish」・「履修ルート」の発行、情報サイト「J-Station」の運営を行なっている団体である。ホームページからメールで担当者に連絡を取ったところ、送って10日ほど経ってから返事が来て、J-Stationからのリンク、6月のニュースとしての取り上げなどで協力してもらえることになった。

後日「E.C.O.の活動全体」と「環境週間の企画」について取材してもらえることになり、それがJ-Station、Lishなどにニュースとして紹介してもらえることとなった。

取材は環境週間責任者の小川・日吉代表の小澤と広報責任者の酒井の3人が受けた。J-stationには6月のニュースとして環境週間のインタビューが掲載され、Lishには次号にE.C.O.の活動全体に関するインタビューが掲載される予定である。また、来年度は履修ルートに広告を掲載させてもらう、という話も出ている。

・塾生新聞

当初より塾内意識調査の調査結果を塾生新聞に載せてもらうということで話が進んでいたが、それに加えて環境週間全体に関する紹介も掲載していただけることになった。

意識調査の結果は7月号に掲載される予定である。

・慶應ジャーナル (<http://www.keio-j.com/>)

慶應義塾大学生のためのポータルサイトで、様々な情報を発信している。今回は環境週間の紹介記事をトップニュースとして掲載していただいた。

・生協ニュース「YOU」

生協学生委員会という団体が編集している生協の冊子で、春学期号では環境週間の概要と生協関連企画の宣伝をアルカディアというコーナーに掲載していただいた。

事後報告も掲載させていただく予定で、1ページほどの紹介記事をこちらで作成中である。

・キャンパスカレンダー

昨年度はキャンパスカレンダーでも環境週間の宣伝を行ったが、今回は担当者が〆切に間に合わせることができず、残念ながら掲載できなかった。来年は決してこのようなことがないようにしたい。

外部メディアへのプレスリリース

今回プレスリリースは2通りの経路で行なった。ひとつは前回と同じく慶應大学の広報課を通してのプレスリリース（慶應環境週間のみ）。そしてもうひとつはエコリーグ経由での3大学合同のプレスリリースである。

3大学合同でのプレスリリースは、それぞれの大学の環境週間に関する資料を出し合い、それをひとつの資料にまとめて環境省・文部科学省の記者クラブを訪問し、大手新聞社など26社に対して、資料を見てもらいながら環境週間について説明した。

読売新聞の記者の方が興味を示してくださり、取材を検討するといってくださいましたが、残念ながら実現はしなかった。しかし来年のための良い足がかりにはなったと思うので、来年は企画段階から注目度の高い企画も考え、来年こそ取材を受けられるようにしたい。

準備段階

- 12月 特になし
- 1月 環境週間MLの立ち上げ
- 2月 特になし
- 3月 担当者のスケジュールの関係で動けず
- 4月 環境週間ミーティング
ホームページの作成（担当・酒井）

他大とのコラボレーションの案が浮上
東大の環境三四郎と相互協力を約束
新メンバーの追加
生協学生委員会発行の雑誌「YOU」での環境週間宣伝の依頼・原稿提出
法政大学 H.E.L.P.!から協力してもらえることに

- 5 月前半 各企画宣伝文第一次〆切
環境週間携帯MLを作成（奈良）
生協学生委員会が発行している雑誌「YOU」に紹介される
- 5 月後半 法政大学キャンパスエコロジーフォーラムより協力を得る
三田の東京電力講演会ホームページが完成（仲摩）
塾生会館古紙回収の告知ポスターの余白を利用して環境週間のPRを掲載
ML・BBS用宣伝文完成（酒井）
他大コラボレーション「広報冊子」原稿しめきり
塾生総合研究所の取材（小川・小澤・酒井）
SFCのホームページが仮完成
ひょうらへの環境週間ビラ掲示の交渉が開始
- 6 月 全体責任者が広報のヘルプをすることに決定
活動紹介冊子とパンフレットを合併することに
慶應大学ホームページ・日吉キャンパスホームページからリンクされる
全体ポスターを学内に貼り出し
E.C.O.平常活動紹介プリント作成（酒井）
慶應広報課を通してプレスリリース
エコリーグ経由で環境省・文部科学省の記者クラブにプレスリリース
法政キャンパスエコロジーフォーラムより合同報告会のお誘い
「慶應ジャーナル」にニュースとして掲載される
「J-station」にニュースとして掲載される

今後の予定

塾生新聞の取材
環境週間3大学合同報告会
塾生総合研究所の「LISH」の発行
生協ニュース YOU での活動報告

今後の展望

今回は学内広報のための計画がしっかりと立てられていなかったこと・予め環境週間責任者との意思疎通ができていなかった事・一部の広報メンバーに個人的な事情があった事などが原因でスケジュールがどんどん遅延し、一部の媒体での広報が

うまくいかなかったことが悔やまれる。一時期、広報責任者が一人で仕事を抱え込んでしまっていたのも反省すべきことである。

来年はそれを反省し、もっとしっかりと計画を立てること・環境週間責任者と広報とでしっかりと意思疎通をすること・しっかりと分業する事に気をつけたいと思う。また、担当者一人一人が割り当てられた仕事に責任を持ち、最低限その仕事はこなす事を心がけていきたい。

分業について

今回の広報の仕事は「ポスター関連」「ウェブ関連」「近隣地域関連」「プレス関連」「他大コラボ関連」に大別できるが、これらのうち「ポスター」と「他大コラボ」は専任の担当者を決めるべきだと思う。その学年のメンバー数・個性にもよるので一概には言えないが、仕事によって必要とされてくる能力も違い、一度に全てをこなすのは大変困難なので、それぞれに適した人材を配置するべきであろう。

個人的な見解を言わせてもらえば「ポスター・パンフ担当」「ウェブ担当」「近隣地域&プレス担当」「コラボ担当」の4部門が良いのではないかと思う。また、コラボ担当は広報から独立させるべきであると思う。それに関しては他大コラボレーションの報告書に書くことにするので是非ご覧になっていただきたい。

学内での広報に関して

今回学内での広報（ポスター・パンフなど）はかなり納得のいかない活動状況であったと言える。終盤仕事の手が余ってしまって、各企画のポスターは完全に各企画担当任せになってしまった。より質の高いポスターを作るためには、そういったノウハウを持っている広報メンバーによる監修があればよかったのではないかと思う。また、パンフレットの完成が環境週間初日にまで遅れてしまい、宣伝に支障が出てしまった。ポスター作成に慣れているメンバーに担当についてもらうと共に、余裕を持って早めに仕事を進めるよう気をつけたい。

他には、集客マニュアルを作成し、全体でノウハウを共有すること・口コミを利用することなども大事だと思われる。

その他

今回は広報のノウハウがまだまだ蓄積していない上に、去年度の担当より反省点を踏まえたアドバイスがなかったために去年と同じ失敗を犯してしまったという部分もある。来年は広報担当が決まったときに、前年度の担当からの引継ぎミーティングを行い、その際に諸注意・アドバイスなども併せて伝えるべきであると思う。

最後にもう一つ、今回の環境週間を終えて思ったのは、まだまだ環境問題に興味のない

学生が大変多いということである。そして、環境意識向上のためのPRの重要性和、広報の限界というものを感じた。いくら頑張っても宣伝しようが、興味のないものに人は集まらないのは当然のことである。魅力ある企画・基礎知識のない学生でも来やすい企画の立案を行っていききたい。

どんなにしっかりした企画を立てようと、それが広く知られ、人が集まらなければ意味はほとんどない。広報担当はそのことをよく自覚し、広報担当でない者も広報と出来る限りの協力・意思疎通をして来年以降の環境週間を成功させてほしいと強く願う。

協力

慶應義塾大学日吉キャンパス

横浜市環境事業局

全国青年環境連盟 Eco-League (エコリーグ)

東京大学環境三四郎

法政大学環境総合サークル H.E.L.P.!

法政大学キャンパスエコロジーフォーラム

塾生総合研究所

生協学生委員会

塾生新聞委員会

慶應ジャーナル

費用

A4 インクジェット用紙 (30 枚)(緊急のため印刷) 315 円

印刷用インク 15645 円

模造紙代・養生テープ・コピーカード・プリントカード 2663 円

他大学とのコラボレーション企画

3 大学同時開催

文責：酒井一樹

活動概要

活動説明

今年度は慶應・東大・法政で同時開催されている環境週間同士を結びつけ、企画や広報での相互協力の促進を行なった。来年以降はコラボ企画の立案・コーディネートなども視野に入れている。

目的

- 複数の大学で連携することにより、学生や世間一般に対してより強く環境週間を訴えかけること
- 大学間の連携を生むことにより、今まで環境週間を行っていなかった大学での環境週間開催を促すこと

活動報告

プレスリリース

全国青年環境連盟 Eco-League(エコリーグ)を経由して3大学合同でのプレスリリースを行なった。それぞれの大学の環境週間に関する資料を出し合い、それをひとつの資料にまとめて環境省・文部科学省の記者クラブを訪問し、大手新聞社など26社に対して、資料を見てもらいながら環境週間について説明した。

読売新聞の記者の方が興味を示してくださり、取材を検討すると言ってくくださったが、残念ながら実現はしなかった。

WEBでの広報活動

これは同時開催の話が出たときに真っ先に決まったことで、3大学合同のホームページトップページを作成し、大学名をクリックすればその大学の環境週間のホームページへ移動できるようにした。こうすることにより、お互いの環境週間を宣伝しあう事に成功した。

3大学の名前がドンと並んだトップページはインパクトも十分で、来年以降の環境週間プロジェクト拡大に向けE.C.O.メンバーのモチベーションも大いに向上した。

広報誌での相互活動紹介

慶應環境週間で配布した環境週間公式ガイド、東大・法政で配布された広報誌・活動紹介冊子にて3大学の環境週間活動を互いにPRした。

企画での相互協力

E.C.O.と東大の環境三四郎とで、環境週間中に行われる企画での相互協力を行なった。具体的には、E.C.O.で東大環境週間の「古着リサイクル」に出す古着を集めて提供したり、慶應環境週間で行われた「矢上小と慶應のクリーン大作戦」に三四郎からスタッフとして参加してもらったりなどである。

法政大学に関しては、時間やマンパワーの関係で互いに協力することができなかった。来年以降はしっかりとした協力体制を構築したいと思う。

環境週間3大学合同報告会

7月12日に国立オリンピックセンターにて3大学合同環境週間報告会を開催する予定である。内容は3大学6キャンパスの環境週間活動報告と、複数の大学でのコラボレーションの報告、そして来年の展望などを予定している。

準備段階

- 4月 中旬に広報担当の酒井と東大環境週間責任者が話して、「同時開催」として互いに協力しあう事を合意する。下旬には法政大学 H.E.L.P.!!にも同時開催としての協力を求めた。
ホームページ合同トップページの作成
- 5月 法政大学キャンパスエコロジーフォーラムより協力が得られる。
他大コラボレーション「広報冊子」原稿提出
- 6月 環境省・文部科学省の記者クラブにプレスリリース
法政キャンパスエコロジーフォーラムより合同報告会のお誘い
- 週間中 東大環境週間の古着リサイクル企画に協力
東大環境三四郎メンバーが、慶應環境週間のゴミ拾い企画に参加
- 7月 3大学合同環境週間報告会

今後の展望

ほとんど思いつきで始まったこの企画であるが、なんとかそれなりに形になり、来年以降のための足がかりになったのではないかと思う。しかし、今回はあくまで「同時開催」であり、「合同開催」ではないことに注意してほしい。来年度より本格的に連携を強めて参加大学もさらに増やしていき、最終的には全国のあちこちの大学で環境週間が開催され、「環境週間」が大学にとって学園祭と同じくらい「あって当然」なイベントになってほしいと思う。

来年度は「コラボ担当」を作り、他団体とのコラボレーションを広報の仕事から独立さ

せた方が良いと思われる。なぜなら、コラボレーションのような渉外的な仕事では、迅速な対応が要求され、その一方で、広報というのはみんなで役割を分担し、意思疎通をしつかりさせながら仕事を進めなければいけないからだ。この2つを同時にこなすことは難しく、兼任はまず不可能と思われる。

具体的には、

「同時開催」として協力することに合意してくれた大学(キャンパス)から一人ずつ「コラボ担当」を決める。

早い段階から、どのようにコラボレーションを進めていくのか責任者を交えて話し合う。

という感じになるであろう。各大学のコラボ担当の集まるミーティングには、可能な限り環境週間の責任者も行くべきであろう。コラボ専用MLなども作り、情報やノウハウの共有・コラボ企画の立案や準備などに活用してみてもどうか。

今年度は立案者の酒井が3大学のコラボをやっていたため、東大と法政の間ではほぼ交流がなかったといえる。また、東大との交渉はうまくいったものの、法政は担当者が途中で変わるなどして、交渉が難航してしまった感もある。この点から考えても、コラボレーション企画のシステム化は必要なのではないかと思う。

また、来年以降はちゃんとしたコラボ企画も作ってほしいと思う。今年度の他大学合同パネルディスカッションを続けるのはもちろんのこと、複数大学での学生意識調査など、考えようによっては色んな企画が立てられると思われる。各大学の環境週間のテーマ以外に、合同でのテーマなどを決めてみるのも良いかもしれない。

やはり団体ごとに事情がそれぞれあるので連携に際して障害もあると思うが、学生の環境活動のさらなる発展のためにも、是非環境週間コラボレーションは進めてほしい。

協力

東京大学環境三四郎

法政大学キャンパスエコロジーフォーラム

法政大学 H.E.L.P.!

全国青年環境連盟 Eco-League

費用

特になし

2003 年度環境週間のまとめ

昨年度から続く、第2回目の今年の環境週間も、目指すものは、「塾生、教員、職員が一体となって環境に対して考えるきっかけ、行動するきっかけとなる」ことであった。

主催も、去年は慶應義塾大学環境サークル E.C.O.となっていたのが、今年は、慶應義塾大学日吉キャンパスも主催となり、大学の HP など大学の各広報機関で広く宣伝していただくことができた。また共催の横浜市環境事業局や、横浜市立矢上小学校や、講演会の講師としてきていただいた千葉県資源循環推進課の森氏、慶應義塾大学日吉保健管理センターの森先生など、塾内外で、新たな関係を築くこともできた。

その一方で、去年の環境週間で行ったことはほぼ達成出来たと思える。今年の環境週間は、去年の環境週間を踏襲する一方、新たな風を吹き込むことができ、非常に成功したと言える。

今年は去年と違い、他大学とのコラボレーションも試みた。結果として、予定が合わない、人員の問題などで同時開催にとどまったが、やはりこのことは来年以降、さらに環境週間を広めていく上で重要な試金石となったと言える。来年以降、他大学の輪を広げ、同時開催だけでなく、合同企画なども考えていきたい。

「分煙」というテーマに関しても、今年の環境週間プロジェクトが発足した時点では E.C.O. 内部においても採用の是非が問われた大変扱いにくいテーマであったが、折しも大学がキャンパスの完全分煙化を今年度から始めたという追い風もあって、結果的にいいテーマになった。

以上、今年度の環境週間の良い面を書いてきたが、様々な良くない面もやはりあった。今年は去年にもまして様々な企画があったのだが、一つ一つの企画が、環境週間の一環として捉えられず、単発の企画としてとらえられていた感がある。環境週間自体の認知度は去年と比較して格段に上がったにも関わらず、各企画を環境週間に結びつけて広報しなかったのは非常にもったいない限りである。

また、人の集まりに関しても、あまり良かったとはいえない。何度も述べるように、環境週間自体の認知度は格段に上がっていたにも関わらず、企画に人が集まらないのは、広報などに問題がなかったとは言えないが、やはり一番の問題点は企画の魅力度であろう。なかには沢山人の集まった企画も多数あるのだが、講演会や、フォーラムなどは特に人が集まらなかった。ただでさえ、「環境」という一般人には取っ付きにくいものを扱っているのに、純粋に環境を前面に押し出した企画は人が集まらない。来年以降は、純粋に環境を訴えかける企画もあっていいと思うが、環境と政策を結びつけたり、ビジネスと結びつけたり、会計と結びつけたりして、環境を二元的に捉えたような企画が望まれる。

それから、塾生、教員、職員の中でも特に「教員」が関わっている部分が少なかったことも良くなかった点として挙げられる。来年以降は、「教員」も積極的に関わることができ

るようなより質の高い企画が望まれる。

最後に、今年も環境週間を無事に終わらせることができたのは、慶應義塾大学 E.C.O.はじめ、慶應義塾大学の職員の方々、企画に参加していただいた学外のみなさんのおかげである。この場を借りて感謝の意を表明したい。